

# 「My まっぷらん」を活用した 地域における津波避難計画策定の手引き



平成 25 年 3 月

三 重 県



# 目 次

## 第1部 「Myまっぷラン」を活用したワークショップの運営と留意点

<b>1</b>	<b>「Myまっぷラン」とワークショップ</b>	<b>1</b>
(1)	「Myまっぷラン」とは.....	1
(2)	ワークショップ、PDCAサイクルの重要性.....	7
(3)	「Myまっぷラン」の活用.....	8
(4)	「Myまっぷラン」の課題.....	9
<b>2</b>	<b>手順の概要</b>	<b>10</b>
(1)	取組の全体概要.....	10
(2)	対象地域の設定.....	11
(3)	コアメンバーの人選.....	11
(4)	ワークショップの開催.....	11
(5)	津波避難訓練の実施.....	12
(6)	地域の津波避難計画の作成.....	12
<b>3</b>	<b>ワークショップの手順</b>	<b>13</b>
第1回	コア会議.....	13
(1)	進行の工夫.....	14
(2)	会議次第.....	14
第2回	全体会議.....	15
(1)	事前準備.....	16
(2)	スケジュール(例).....	21
	「Myまっぷラン」の配布.....	26
第3回	全体会議.....	27
(1)	事前の準備.....	28
(2)	スケジュール(例).....	29
第4回	全体会議.....	38
(1)	事前の準備.....	39
(2)	スケジュール(例).....	40
第5回	コア会議.....	45
(1)	事前の準備.....	46
(2)	会議次第.....	46

(3) 地域の津波避難計画の作成 .....	46
------------------------	----

### 3 留意点

47

## 第2部 様式集

様式1	第1回コア会議次第.....	1
様式2	第1回コア会議資料・実施計画書 .....	2
様式3	参加募集チラシ .....	10
様式4	第2回全体会議資料.....	11
様式5	「My まっぷラン」の配布説明資料 .....	18
様式6	第3回全体会議資料.....	20
様式7	津波避難訓練参加広報チラシ .....	31
様式8	第4回全体会議資料.....	33
様式9	第5回コア会議次第.....	43
様式10	第5回コア会議資料.....	44
様式11	地域の津波避難計画.....	49
様式12	「My まっぷラン」 .....	51

## 第1部

# 「My まっぷラン」を活用したワークショップの運営と留意点

## 1 「My まっぷラン」とワークショップ

### (1) 「My まっぷラン」とは

○「My まっぷラン」とは、川口淳三重大学大学院工学研究科准教授が提唱し、産学連携のもと、実践的に研究を進めてきた、住民一人ひとりが津波避難計画を作成するための手法で、その概要は以下のとおりです。

- 表面には、個人情報に加え、災害時の安否確認のための家族・友人等の連絡先や非常持ち出し品のリスト等を記載します。
- 裏面には、地図に自宅・避難場所・避難経路・その交通手段のほかに、避難経路で危険な場所や不安なことを記載し、自分自身の避難経路を明確にすることができるようになっています。
- 用紙は、A3版を折りたたみ、A6版のポケットサイズになるので、普段から常に携帯することができるとともに、災害時にも持ち運びしやすい大きさになっています。

○この「My まっぷラン」には、次のような意義があります。

- ◆自ら津波避難を考えるツール（道具）になるとともに、家族等で津波避難に関する話し合いをするきっかけにもなり、「自助」の意識向上に大きな効果が期待できます。
- ◆地域にとっては、地域住民が作成した「My まっぷラン」を持ち寄って集計し、お互いの考え方を話し合うワークショップ等を実施することにより、津波避難に関する地域の課題を明確にし、住民の間で共有することができるとともに、課題を解決するための検討をスムーズに進めることができます。
- ◆行政や防災関係機関にとっては、地域内の住民への配布・回収等を通して、地域の津波避難に関する関心、防災意識等を把握することができます。

○「My まっぷラン」を活用した取組においては、「住民一人ひとりの津波避難計画を住民自らが作成することから始め、ワークショップ※を通じて、地域全体の津波避難計画づくりに繋げていく」というプロセスが重要です。

※ワークショップとは、まちづくりにおいて、地域に関わる様々な立場の人々が自ら参加して、グループに分かれた話し合いによって、地域の現状や課題を整理したり、改善計画を検討する方法です。ファシリテーターと呼ばれる司会進行役を中心に、参加者全員が発言したり、体験できるようにするものです。

【「Myまっぷらん」の例（熊野市有馬町芝園地区）】

○A3版を折りたたみ、A6版のポケットサイズになります。表面は個人の必要な情報、裏面は個人の津波避難計画を記載し、常に携帯します。下記は熊野市有馬町芝園地区での作成例です。災害時要援護者の状況を記載する等、地域ごとに内容を工夫することができます。

**【表面】**

あなたの情報

熊野市有馬町 芝園地区  
三重県沿岸地域「SUNAMI」避難計画  
**Myまっぷらん**

熊野市 熊野市

氏名：熊野太郎 住所：熊野市有馬町 1 番地  
電話番号：(0597) 89-4111  
携帯電話番号：(090) 000-0000  
メールアドレス：無職  
勤務先・学校等：無職  
生年月日：10年10月10日  
血液型：O 型 (RH+・RH-)  
アレルギー：出稼中の豚肉、鶏肉等

家族・友人の連絡先

災害時の安否確認方法について、事前に家族で話し合っておきましょう。

（ご近所の方）	
名前	住所
電話番号	メール
名前	住所
電話番号	メール

災害時の安否確認のため、家族、友人、近所の方などの連絡先を記入します。

災害用伝言ダイヤル 171  
防災行政無線プリーダイヤル 0120-015-770

地震への備え

- ① 家具類の転倒・落下の防止
- ② けがの防止対策（避難経路の確保）
- ③ 家具の強度確認（耐震診断、補強）
- ④ 消火の備えをしておく
- ⑤ 火災発生時の防止対策をしておく
- ⑥ 非常用品を備えておく
- ⑦ 家族で話し合っておく
- ⑧ 防災環境を把握（防災訓練）
- ⑨ 過去の地震の教訓を学ぶしておく
- ⑩ 防災の知識・技術を身につけておく

非常持ち出し品のチェックリスト

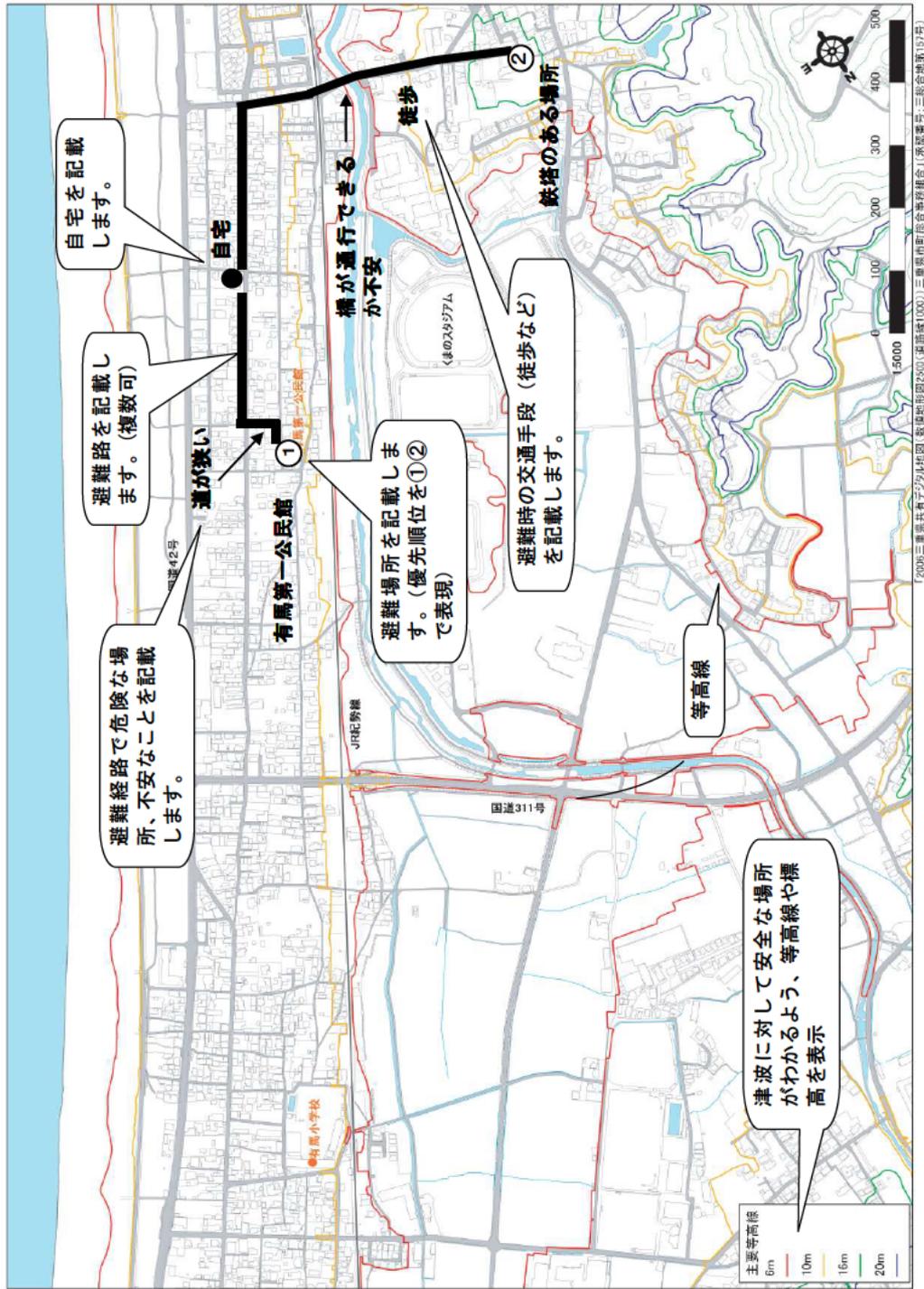
避難時に持っていくべきものを書き出しておきましょう。

- 飲料水
- 非常食
- 懐中電灯
- 携帯ラジオ
- お薬
- 貴重品
- 生理用品
- 介護手帳
- 障害者手帳
- その他

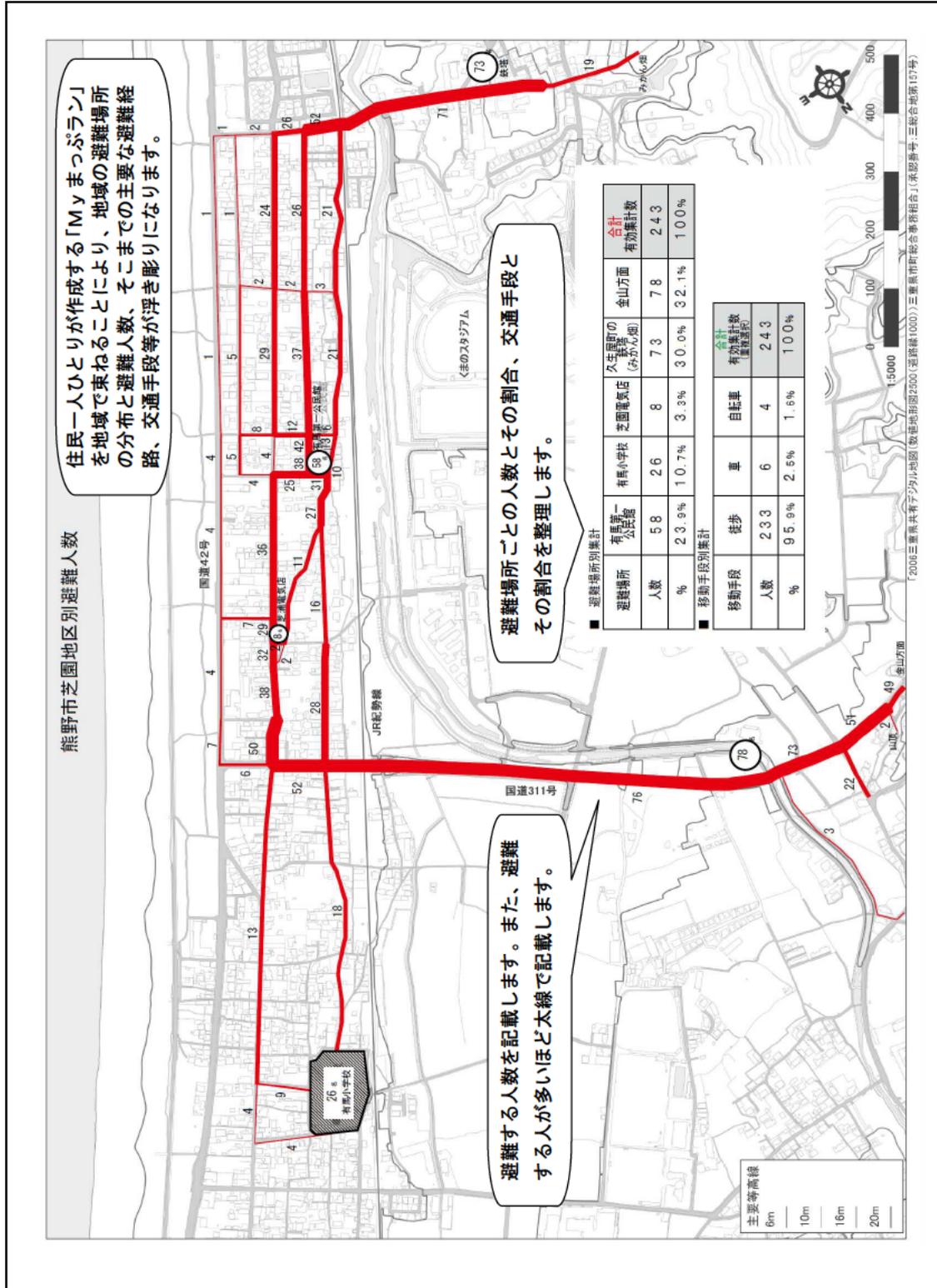
地震発生時の行動

- ① 身を守る！
- ② 火を消す！
- ③ 扉を開ける！
- ④ 非常用品を取出し！
- ⑤ 安全な場所へ！
- ⑥ 避難経路を確認！

【裏面】



【「Myまっぷらん」の集計結果の例】



【表面】

平成25年1月作成

熊野市有馬町芝園地区 津波避難計画(案)

地区の概況					
世帯数	人口	65歳以上人口	うち単身	75歳以上人口	うち単身
233世帯	540人	180人	41人	107人	31人
—	100%	33.3%	7.6%	19.8%	5.7%
要援護者数		幼児・児童数			
76人(80歳以上)		—			
うち独居者が23人		—			

津波浸水予測に関する基礎的情報を整理します。

平成23年度 三重県津波浸水予測(MS.0)	
50cm津波到達時間	最大津波到達時間
4分	13分
	最大津波高
	14.13m

津波避難に向けた地域の目標  
(基本目標)

『地域の全員が津波から助かるよう努力しよう』

- 今から行う具体的な目標
- まず、家族、近所で防災について話し合います
- 非常時の持ち出し品は、自分で考えて自分にあつたものを用意しましょう
- 市の補助を活用して家具を固定しましょう
- いざという時のために防災訓練に参加し、みなさんと防災について話し合います

津波から逃げるための準備

- 定期的に非常持ち出し品をチェック(賞味期限、季節にあつた衣類等)、持ち出しでできる重さを確認しましょう
- 家具の転倒防止、建物の耐震補強をしましょう
- 懐中電灯(定期的に乾電池の確認)、運動靴、ライフジャケット等の非常用品を準備しましょう
- 高齢者等の移動手段を準備しましょう(リアカー等)
- 家族の避難先・連絡先、避難先となる知り合いを確認しましょう
- 防災資機材の確認、毛布・食料品が不足しないよう確認をしましょう
- 避難場所までの危険箇所(階段、エレベーター、廊下)の確認をしましょう
- 公民館の避難場所としての機能向上(避難場所としての機能向上、避難場所としての機能向上)
- 避難タワーの建設を要望

上記の目標達成に向けて、津波から逃れるために自分で準備すること、地域で準備することなど、地域で話し合ったことを記載します。

目標達成に向けて、避難方法、今後の取組など、地域で話し合ったことを記載します。

地域の世帯数、人口、災害時要援護者の人数など、基礎的な情報を記載します。

避難方法	
要援護者	避難方法
要援護者の避難	○要援護者には有効であるが、交通津波及び避難の障害になるため、歩ける人は歩いて逃げましょう。
○家族でできることを準備しましょう。	○自転車も活用しましょう。
○要援護者の名前をつくり、どのような方法で保護するか地域で話し合います。	○逃げながら要援護者に声をかけましょう。
	○リアカーなどを借りて近所で助け合って避難しましょう。

今後の取組み  
○個人や地域の状況の変化に合わせて、「Myまっぶらん」とこの避難計画を更新します。  
(平成24年11月のMyまっぶらん記入者243名)  
○毎年、避難訓練を実施し、避難訓練実施後に訓練の成果の確認、車での避難や要援護者の支援等について話し合う場をもちます。

『Myまっぶらん』についての評価  
○平成24年度の津波避難計画作成ワークショップに参加した方のアンケートによれば、「Myまっぶらん」は、「役にたった」「少しは役に立った」という人が約74%になり、「あまり役にたつたなかつた」という人はいません。



津波避難計画参加者の意見  
○これからも避難訓練を行って、地域の防災力を高めていきたいと思います。まだまだ、避難訓練に参加していない人もいます。家族だけではなくながなが話しかけることができないので、このような取組みを継続していく必要があります。

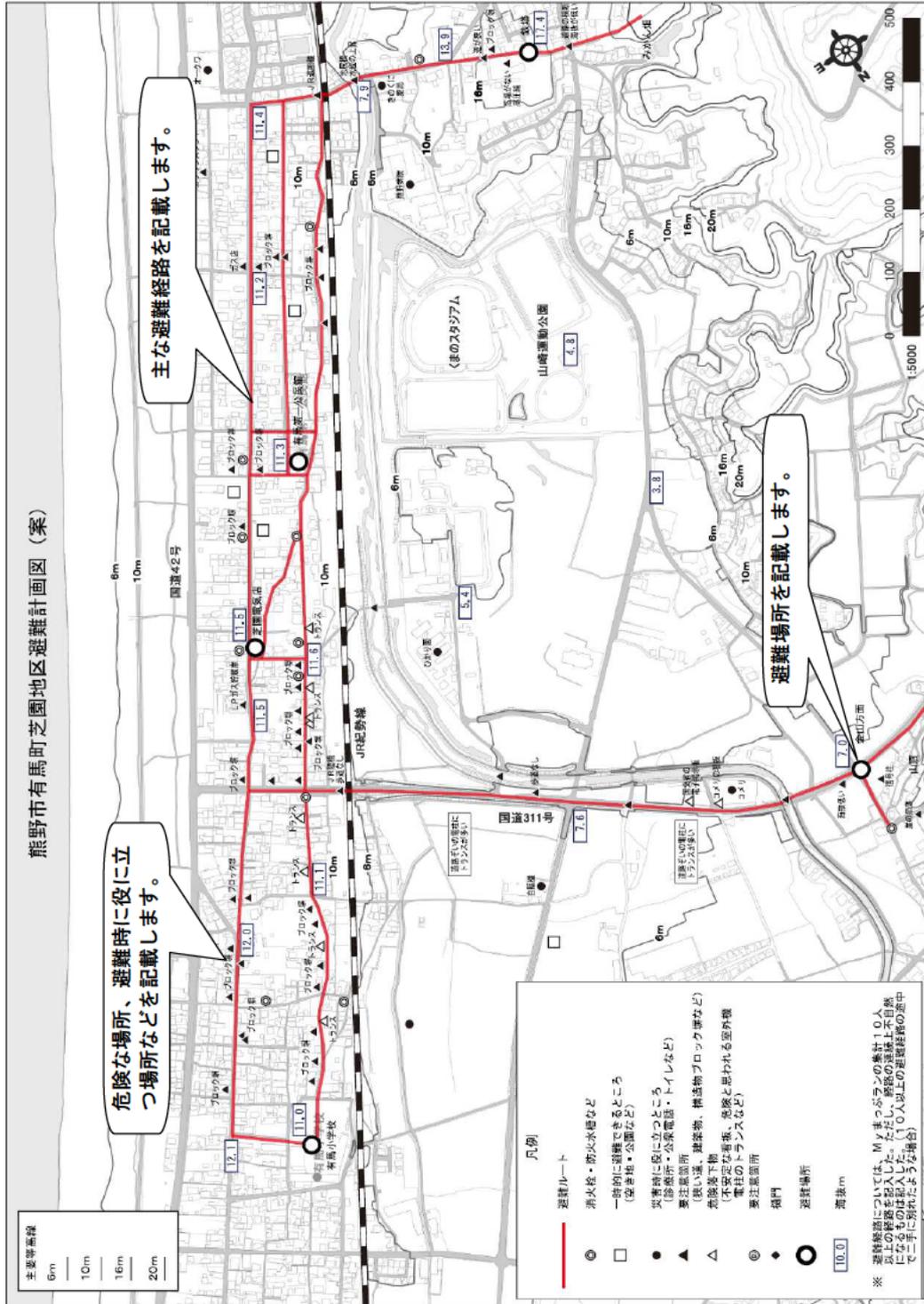
○災害時要援護者の避難については、人による支援の程度が違います。墨田は地区に人がいないので、みんなでの避難が難しいです。墨田は地区に人がいないので、みんなでの避難が難しいです。墨田は地区に人がいないので、みんなでの避難が難しいです。

アンケートなどにより、津波避難計画作成の参加者の意見などを記載します。

【問い合わせ先】  
熊野市防災対策推進課 電話89-4111 (内線315・336)

【裏面】

熊野市有馬町芝園地区避難計画図（案）



## (2) ワークショップ、PDCAサイクルの重要性

○「Myまっぷらん」を地域で束ねれば、地域の避難場所の分布やそこまでの主要な避難経路が浮き彫りになり、避難者が集中することによる問題点等が明らかになります。また、個人では「Myまっぷらん」を作成することができない災害時要援護者の問題等、地域で共有すべき課題が浮かび上がってきます。

○このような課題を地域住民等が共有し、改善のための取組を検討・実践するためには、住民一人ひとりが考えている津波避難の方法等を話し合うことが大切です。そのために、有効な方法としてワークショップ形式を取り入れます。

○また、「Myまっぷらん」を作成すれば、津波避難計画が完成するという訳ではなく、その計画に基づいて津波避難訓練を実施し、計画の妥当性や問題点を検証するとともに、地域の人口構成やインフラの状況の変化等に応じて計画を点検、評価し、新たな課題の抽出と改善方策を検討するPDCAサイクル※を実施することが極めて重要になってきます。

○しかしながら、「Myまっぷらん」を取り入れることで全ての課題が解決するというものではありません。高齢者、障がい者、乳幼児等の災害時要援護者の避難対策については、ワークショップによる話し合いで簡単には解決することはできません。自動車による避難についても同様で、「誰が誰をどういうルートで避難させるか」等、どの地域においても、話し合うことですぐに解決できない課題があります。

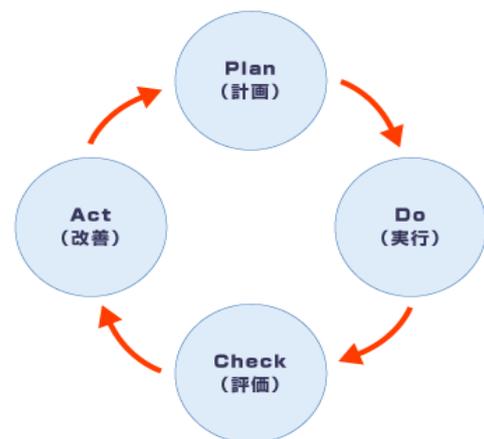
○これらの課題については、考えられる手段を講じて、最善策を検討していく必要があります。三重県としての考え方を、「津波避難に関する三重県モデル事業実施報告書」（平成 25 年 3 月 三重県）で示していますので、これも参考にしてください。

※PDCA サイクルとは、業務改善活動等で広く活用されているマネジメント手法のひとつであり、「計画（Plan）：計画を作成する」「実行（Do）：計画に沿って実施する」「評価（Check）：実施した結果が計画に沿っているかどうか確認する」「改善（Act）：実施した結果が計画に沿っていない部分を処置する」のプロセスを順に実施し、次のPDCA サイクルにつなげていくものです。

■ワークショップの様子



■PDCAサイクル



### (3) 「My まっぷラン」の活用

#### ① 「My まっぷラン」の長所

○「My まっぷラン」は、住民一人ひとりが避難場所とそこまでの経路を自ら考える契機になるとともに、家族等の連絡先や非常持ち出し品を書き込むことにより、家族等で津波避難に関する話し合いをするきっかけにもなることから「自助」の防災力向上に大きな効果が期待できます。

○そして、住民一人ひとりの「My まっぷラン」を一つに束ねることで、地域全体で避難場所へ避難する人や同じ避難経路を使用する人の総数を推計できることから、避難した人全てがその避難場所にスペース上入れるか検討したり、自主防災組織や消防団等地域が避難誘導について、「誰を、どのように、どの程度配備していくか」等を決定するうえで参考となり、地域の津波避難計画等の作成に役立ちます。

○また、行政においては津波避難ビル等の避難場所の確保、津波避難路、避難施設の整備の目標設定ができ、計画的な整備を図ることが可能となります。

○今後、「津波防災地域づくりに関する法律」に基づき市町が推進計画を策定する場合、津波避難路、避難施設等に係る事項を記載する必要があります。また、県が津波災害警戒区域（イエローゾーン）を設定した場合には、市町の地域防災計画に津波に関する避難場所、避難経路や津波避難訓練の実施を記載していくこととなります。こうした場合にも、「My まっぷラン」は、住民に明確な記載内容を示すことができ、その結果、住民が主体となった総合防災力の向上が可能となります。

#### ② 「防災ノート」との連携（児童生徒の避難対策）

○三重県教育委員会では、子ども達が自然災害から自らの身を守るために、発達段階に応じて防災意識を高め、防災対策に取り組むことを目的に「防災ノート」を平成24年2月に作成し、県内の小中高等学校、特別支援学校の児童生徒に配布するとともに新入生等にも継続的に配布しています。

○「防災ノート」は、小学校低学年版、高学年版と中高生版の3種類あり、地震・津波に関する知識を習得し、学校からの帰り道の危険な場所や避難場所を自分で記載する等、発達段階に応じた内容となっています。



- また、「防災ノート」は、学校での防災教育に活用するとともに、家庭において保護者と一緒に考えることで、家族の防災意識を高め、家庭の防災計画ともなるよう構成されています。
- 現在、「防災ノート」で学んだ子供たちが、この「防災ノート」を持って、地域において大人と一緒に避難訓練等の防災活動に参加するよう、働きかけを行っています。このことにより、低学年であっても、自らの身を自ら守ること、地域の人々と一緒に防災に取り組むことができるようになると思っています。
- 「My まっぷらん」は全ての住民を対象としていますので、児童生徒一人ひとりの津波避難計画の作成から学校も含めた地域の津波避難計画づくりを行ううえで、「防災ノート」と関連させることが大切になってきます。
- 「防災ノート」を活用して、学校や家庭において防災意識を向上させ、正しい知識と行動力を身に付けることができた子ども達が、引き続き、地域住民の一員として「My まっぷらん」に取り組むことによって、次世代の防災の担い手として育つことを期待しています。
- こうした、「防災ノート」と「My まっぷらん」の取組が、学校、家庭、地域へとつながり、かつ継続していくよう、県としても支援していきたいと考えています。

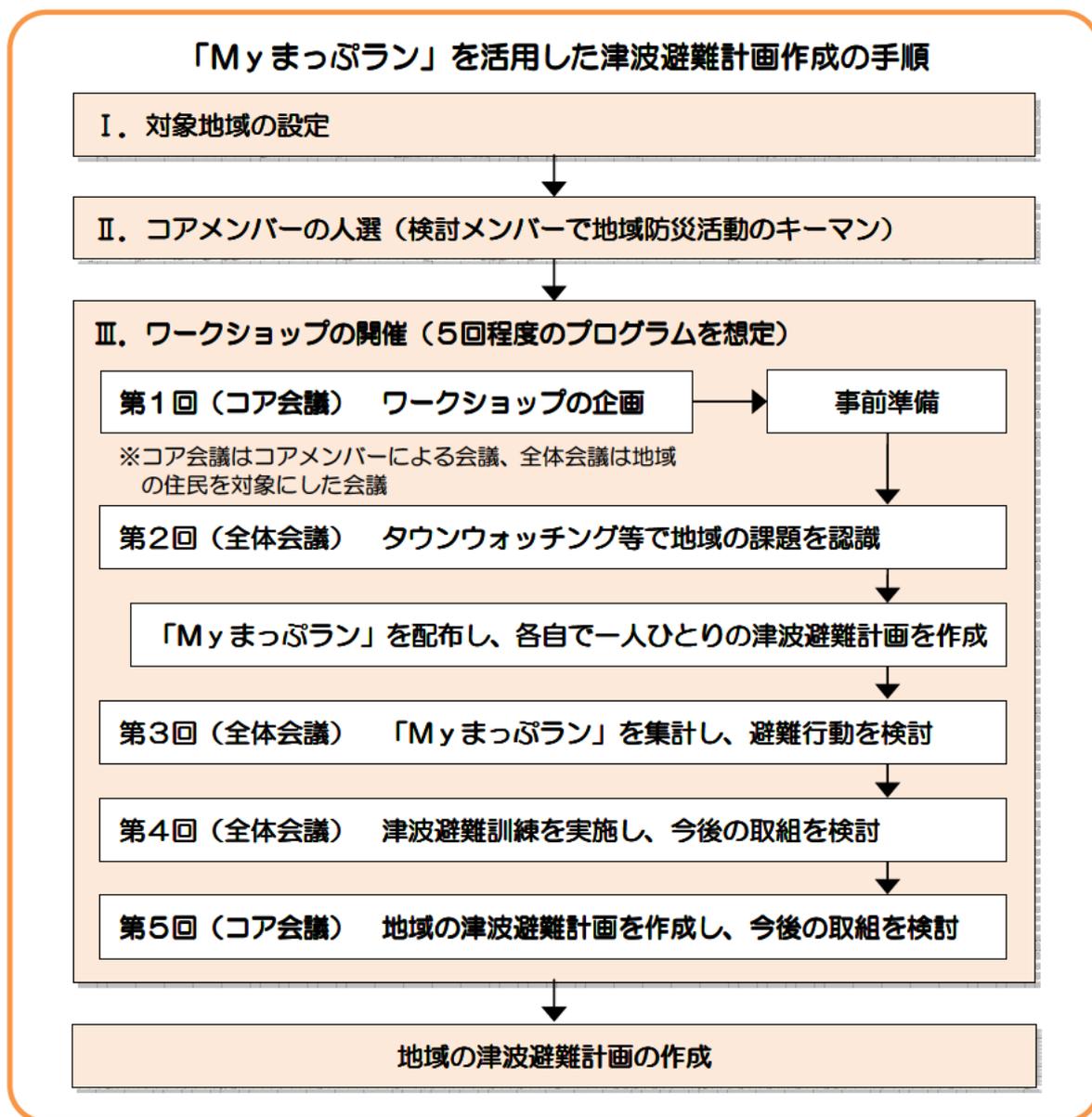
#### (4) 「My まっぷらん」の課題

- 「My まっぷらん」を推進するためには、できるだけ多くの地域住民の参加が鍵となります。しかしながら、「My まっぷらん」を自ら作ることが困難な方もいるでしょうし、個人情報保護の観点から、この取組を敬遠される方もいるかも知れず、全員の参加を確実なものとすることは容易ではありません。
- また、個人それぞれの体力差等から、避難が可能な場所が異なったり、自力では避難行動を取ることが困難なケースもあります。
- 「My まっぷらん」を持たない人々、例えば観光客等の来訪者の避難対策をどうするかも課題に挙げられます。公共施設、商業施設、観光施設、宿泊施設、事業所それぞれに、来訪者を安全に避難場所まで避難させるための計画、体制が整備される必要がありますが、避難場所を共有する可能性がありますので、地域の津波避難計画もその整合に留意する必要があります。
- 「My まっぷらん」の地図作成等には時間や手間がかかるため、住民、地域と行政が連携・協力して作成することが必要になります。
- また、「My まっぷらん」を作ることがゴールではありませんので、少なくとも年に1回は津波避難訓練を実施して、その有効性について検証を続け、必要に応じて、「My まっぷらん」と地域の津波避難計画を改訂していくことが大切です。

## 2 手順の概要

### (1) 取組の全体概要

- 「Myまっぷらん」を活用した津波避難計画作成の手順の標準例を以下に示します。
- 自治会、自主防災組織等が主体的に取り組むことが必要ですが、まずは、市町がこれらに積極的に取組を働きかけかけるとともに、職員の派遣等の取組に対する支援を行っていくことが必要です。



## (2) 対象地域の設定

○ワークショップを行う地域の単位は、日常的な地域活動についてまとめた地域を考慮して設定します。

○基本的には、自治会、自主防災組織の単位が適当と考えられますが、地域の状況に応じて決める必要があります。なお、取組地域の規模が大きいとワークショップの参加人数が多くなりすぎ、運営が大変になりますので、地域を分割する等、規模が大きくなりすぎない工夫が必要です。

●取組地区（熊野市有馬町芝園地区）の人口例：約 540 人、世帯数：約 230 世帯

## (3) コアメンバーの人選

○地域の住民を対象にしたワークショップを行う前に、地域の防災に関わる様々な分野のリーダーをコアメンバー（検討メンバー）として人選し、ワークショップの進め方を企画します。自治会や自主防災組織のほか、災害時要援護者に関わる民生委員・児童委員、学校関係、地域の各種団体、消防団や消防・警察関係機関等が参加することが必要です。

■コアメンバー（検討メンバー）の例

分野	メンバー
自治会・自主防災組織	役員（会長、副会長、書記、会計、幹事、顧問等） 班長 等
民生関係	民生委員・児童委員 等
学校関係	保育士・幼稚園教諭、保護者 小中学校教諭、PTA 等
各種団体等	老人会、子供会、医療機関 等
消防、消防団	消防本部の職員、消防団長 等
警察	駐在所警察官 等

## (4) ワークショップの開催

○ワークショップは、グループ単位で話し合うのが基本であり、話しやすさの観点から、1 グループ 10 人程度が望ましいでしょう。

○ワークショップでは、地域住民がタウンウォッチング（住民がグループでまち歩きを行い、避難時に危険な場所や役に立つ場所等を調べ、地図等に整理する方法）した防災情報等を参考に、「My まっぷラン」の作成に向けての課題を話し合います。

○また「My まっぷラン」が作成された後は、これを集計して地域全体の津波避難に関する問題点、課題等を話し合い、解決方策を検討します。



## (5) 津波避難訓練の実施

○住民一人ひとりが作成した「My まっぷラン」の妥当性や問題点を検証するとともに、地域全体として避難場所や避難経路の問題点を点検、検証し、津波避難に関する課題を抽出するため、津波避難訓練を実施します。

○多くの方が参加しやすいような日時に実施することが望ましいですが、地震はいつ発生するかわからないので、夜間や地域住民が少なくなる平日の昼間等に行うことも必要です。

○津波避難訓練を実施した後は、参加者が集まってワークショップを行い、「My まっぷラン」及び地域の津波避難計画の問題点について、点検、検証を行います。これにより、新たな課題を発見することもできますので、地域の津波避難に関する目標と方策を再検討していきます。



■津波避難訓練の様子



■津波避難訓練後のワークショップの様子



## (6) 地域の津波避難計画の作成

○地域の防災力を高めるためには、ワークショップを通して話し合ってきた内容を地域で共有し、地域全体の防災意識の向上、協力体制の確立につなげていくことが重要です。

○より多くの住民がワークショップに参加することが望ましいですが、参加できなかった人を含めて情報を共有するため、これまでの活動内容や今後の目標等を地域の津波避難計画として取りまとめます。

○地域の津波避難計画は、地域の人口構成やインフラの状況の変化等を反映するとともに、PDCAサイクルの実施と合わせて、一定期間で見直すことが必要です。

○次頁から、各ワークショップの概要、ポイント、手順等を述べます。



### 3 ワークショップの手順

#### 第1回（コア会議） 目的を確認し、ワークショップを企画する

##### 【概要】

- 本取組の目的・趣旨を確認します。
- ワークショップの流れと各回の検討内容・進め方、関係者間の役割分担を確認します。
- その他、ワークショップの周知方法の確認、「Myまっぷらん」の配布・回収方法の確認等を行います。
- 地域の課題について意見交換します。

#### ポイント

##### ○コアメンバーによる会議

- ・地域の津波避難計画を作成するにあたり、計画を作成する目的、地域の課題等をコアメンバーが共有し、同じ方向を向いて地域の津波避難計画を作成するため、コアメンバーによる会議を開催します。そこで、津波避難に関する知識、地域の津波避難計画を作成する必要性等を共有します。



- ・検討のための原案については、コアメンバーの中でプログラム企画者（進行役）を決めて検討することが望ましいですが、市町の担当者等と協力して作成することが必要です。

##### ○本取組の目的・趣旨の確認

- ・地域住民が主体になったワークショップの実施、地域の津波避難計画作成の目的と目標について説明し、参加者の理解を得ます。

##### ○住民が参加するワークショップの進め方の確認

- ・ワークショップの回数とその内容、会場を決めます。
- ・コアメンバーの役割分担を決めます。

企画進行役：ワークショップの進め方の立案、ワークショップの司会進行

運営スタッフ：ワークショップの準備作業・グループ検討の補助

「Myまっぷらん」の作成：コアメンバーで作成が困難な場合には、市町等に協力を依頼します。

- ・住民への周知方法（チラシの作成と配布の方法等）を決めます。

##### ○地域の実情・課題認識の確認

- ・津波に対する意識・理解、活動状況、津波避難に関する問題・不安等を参加者全員で確認します。

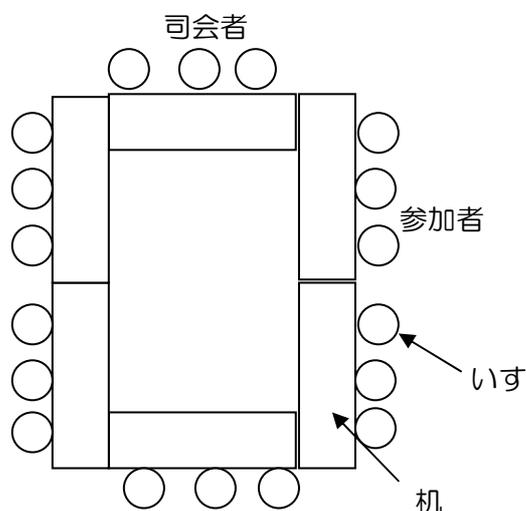
## (1) 進行の工夫

### ○学識経験者、災害経験者等の講演の開催

- 会議が始まる前に、コアメンバーの津波避難に関する意識を共有するため、学識経験者等による講演や災害経験者の体験談等を企画してもよいでしょう。  
(例えば、県や市町の防災担当者、三重のさきもり、みえ防災コーディネーター等)

### ○会場の机配置

- お互いの顔を見ながら意見交換しやすいように、机は口(ろ)の字に配置しましょう。教室方式(講義方式等ともいう。机を前から順番に並べる方法)は、前に並ぶ人(司会者等)と参加者とが対決姿勢になってしまいます。
- 会議の時間は、2時間程度に収まるようにしましょう。



## (2) 会議次第

○標準的な会議次第は下記の通りです。議事は、地域の状況に応じて設定しましょう。

(様式1、様式集P1を参照)(配布資料は様式2、様式集P2を参照)

1. 開会
2. あいさつ (自治会長、自治体の担当課長等)
3. メンバー紹介 (名前と所属等)
4. 議事
  - ①本事業の目的、趣旨 (コアメンバーの代表者、行政等が説明)
  - ②学識経験者等による講演
  - ③本事業の進め方
  - ④意見交換
5. その他
6. 閉会

## 第2回（全体会議） タウンウォッチング等で地域の課題を認識する

### 【概要】

- 津波避難について参加者の意識・理解を共有するための研修を行います。
- 地図を使って、参加者のグループごとに「まち」の構造を把握し、避難場所の候補と避難経路を話し合います。避難場所の候補までの経路をタウンウォッチングし、危険な場所、役に立つ場所等を把握します。
- タウンウォッチングの結果を防災マップにまとめ、気付いたことや課題を話し合います。
- 「Myまっぷらん」を全住民に配布し、次回までに住民一人ひとりが津波避難計画を作成します。

### ポイント

#### ○津波避難に関する研修等

- ・津波避難に関する基礎知識、地域の津波避難計画作成の必要性等を参加者で共通認識することが重要です。

#### ○防災マップの作成

- ・防災マップには、以下のように「まち」の構造の把握やタウンウォッチング等により危険な場所や役に立つ場所等を書き込みます。防災マップを作成する過程を通して、地域の課題を再認識することができます。

※防災マップとは、地震が起こったときに危険な場所や物、または役に立つ場所や物が地図に記入されていて、災害時に役に立つ情報を得ることができる地図で、「Myまっぷらん」を作成する際の参考となるものです。

#### 【防災マップに記入する項目】

項目	内容
「まち」の構造の把握	道路、鉄道、河川・水路等
津波に関する危険性の把握	津波浸水予測区域等
避難場所の選定	津波浸水予測区域の外側（水平避難）あるいは最大津波高よりも高い施設（垂直避難）
危険な場所の抽出	避難時に危険な場所（転倒・落下・倒壊の危険性のあるブロック塀、看板、危険物等）
役に立つ場所の抽出	一時的に避難できる場所（空き地、公園等）、消火活動機材のある場所（消火栓、消火器、防火水槽等）、災害時に役に立つ場所（病院、食堂、食料品店、公衆電話等）等
避難経路の選定	避難場所まで短時間、安全に避難できる経路

#### ○地域の実情に応じた実施

- ・地域の規模や避難場所までの距離によっては、参加者の研修、タウンウォッチングと防災マップの作成を行うには時間的に無理な場合もあります。このような場合には、2回に分けて、研修とタウンウォッチングを別の日程で行うことも考えられます。

#### ○「Myまっぷらん」の配布

- ・個人情報保護の観点から全住民への配布は大きな課題となります。自治会による広報等の配布手続きの活用、コアメンバーが手分けして各戸訪問する等、地域にあった配布方法の検討が必要です。

## (1) 事前準備

### ①グループの設定と参加人数の想定

- ワークショップは、参加者全員が活発に発言し議論しやすいように、グループ形式で行います。一人ひとりの発言のしやすさや円滑な進行を考慮すると、1グループは10人程度以内が望ましいでしょう。
- ワークショップで避難場所、避難経路を検討する際には、地理的に近い人でグループを構成したほうが良いため、自治会の班等をグループの基本単位にします。
- グループ数と1グループあたりの参加人数を想定し、全体の参加者数を想定します。

### ②会場の確保

- ワークショップは、グループごとにテーブルに地図（通常はA0版：841mm×1189mm）を広げて作業や意見交換を行うため、グループ数分のテーブルが入る広さの会場が必要です。あまり広すぎる会場は、参加者の注意が散漫になるため、参加者でいっぱいになる程度の広さが望ましいでしょう。
- 参加者の増加に配慮して、いすは余裕をもった数を用意することが望ましいでしょう。

### ③参加者の募集

- 対象地区全戸にチラシ等を配布し、ワークショップへの参加を呼びかけます。
- 自治会の協力を得て、行政の広報と同時に配布する等、工夫しましょう。
- 地域によっては、居住者だけでなく、地元企業関係者、旅館や観光業者、港湾関係者、NPO等の地域団体等にも参加を呼び掛けることが考えられます。

### ■募集チラシの例

熊野市有馬町芝園地区のみなさまへ



## みんなで津波に備えよう

津波避難計画をつくって、避難訓練に参加しよう

本事業は、津波避難に関する三重県モデル事業として、県と市が協力し、有馬町芝園地区の避難計画を住民のみなさまと一体となり作成するものです。

8月末に国の内閣府から、南海トラフ巨大地震による被害想定が発表されました。津波について不安に思っていることをみんなで考え、津波に備えるために、個々の津波避難計画の作成と避難訓練を行います。

三重大学の川口淳准教授を講師にお迎えして、次のとおりプログラムを実施しますので、ぜひご参加ください。

#### ●プログラム

1. 川口先生の講演・プログラム全体の説明とまち歩き	【日時】10月7日(日) 朝9時～12時半 【場所】有馬第一公民館	川口先生の講演と、まちを歩きながら危険箇所の確認を行います。
2. 津波避難計画の作成	【日時】10月19日(金) 夜19時～21時 【場所】有馬第一公民館	個人個人の避難計画を作成します。
3. 津波避難訓練	【日時】11月25日(日) 朝9時～12時 【場所】有馬第一公民館	作成した津波避難計画をもとに、避難訓練を実施します。

ご家族・ご近所でお誘い合わせのうえ、ご参加ください。

事前の申し込みは不要です。

大人から子どもまで、地域のみなさまで考えましょう！



問合せ先：  
熊野市防災対策推進課  
電話：89-4111(内線315・336)

三重県防災対策部  
防災企画・地域支援課 地域支援グループ



(様式3、様式集P10参照)

#### ④「My まっぷらん」の準備

○住民一人ひとりが津波避難計画を作成するための「My まっぷらん」を作成します。基本形は、様式 12（様式集 P51）にありますが、災害時要援護者の状況を記載する等、地域の状況にあった内容にアレンジすることができます。

○地域の地図は、対象地域だけでなく、海岸から離れた避難場所の想定地まで入った範囲で作成することが必要です。市町が所有している都市計画図あるいは三重県共有デジタル地図を使えば良いでしょう。ワークショップで使う地図の範囲と同じにしたほうがわかりやすくなります。

#### ⑤ワークショップ用地図の準備

○ワークショップで使う地図を準備します。市町が所有している都市計画図あるいは三重県共有デジタル地図を使って、大きさはA0サイズ（841 mm×1189mm）、縮尺は、1/2500 以上が良いでしょう。「My まっぷらん」で作成する地図と同じ範囲としたほうがわかりやすいことから、「My まっぷらん」の地図を拡大して作成しても良いでしょう。

○地図は、グループの数だけ用意します。

##### ●三重県共有デジタル地図について

三重県市町総合事務組合が所有している数値地図を活用できます。市町からの申請あるいは購入により入手可能です。

<http://shichosogo-mie.jp/map.html>

#### ⑥ワークショップ用の道具類の準備

○ワークショップで使う道具類を準備します。

○必要な道具類のチェックリストをつくっておくと便利です。

#### ■ワークショップの様子



■準備物リスト

用途	準備物		数量	
	種類	使い方	グループごと	全体
グループワーク	透明シート	・地図の上に重ねて情報を書き込んだり、付箋紙を貼る。	1	
	マジックペン（各種の色）	・地図記入用 ・透明シートを重ねて使う場合は油性、地図に直接記入の場合は水性	1セット	
	新聞紙	・机の保護（なくても可）	1日分	
	アンメルツ等（ベンジン）	・マジックペンの修正に使用	1	
	色丸シール（各種の色）	・透明シートあるいは地図に貼って各種の情報を示す。	数枚づつ	
	付箋紙（各種の色）	・意見や情報の場所の名称を書き込む	数種類	
	サインペン	・付箋紙等への書き込み	数本	
	セロハンテープ	・地図と透明シートの固定	1	
	模造紙	・テーマについて検討内容を記入	テーマ数	
	カメラ	・記録用		1
	パソコン、プロジェクター、スクリーン	・作業内容の説明、写真映像の撮影		1
	マイク	・説明用		1
グループ札（各テーブルに置くもの）	・グループの名前等	1		
タウンウォッチング（まち歩き）	図面（A3版程度）	・タウンウォッチングの記入用	1	
	画板	・図面をはりつけ	1	
	蛍光ペン、ボールペン	・歩くルートを地図に記入	1	
	カメラ（携帯電話でも可）	・危険箇所等の記録	1	
グループ発表	ベル	・発表の時間を知らせる		1
	タイマー	・発表時間を測る		1
	ホワイトボード、黒板等	・発表のシートを張り付ける	適宜	

## ⑦配布資料の準備

○ワークショップで使う資料を準備します。

### ■配布資料例

準備物		数量 (グループごと)
種類	用途	
津波浸水想定区域図	津波浸水想定区域の確認 (県のホームページから印刷)	1～2部
各種ハザードマップ	土砂災害等の危険個所を確認 (市町で作成している資料を活用)	1～2部
プログラム説明資料 (様式4、様式集 P11 参照)	パワーポイント資料を印刷すれば、 プロジェクターと同じ内容になる ため、わかりやすい。	参加者全員

## ⑧役割分担の確認

○ワークショップの進行をスタッフで確認し、ワークショップの司会・進行、グループワークの補佐（1人で2～3グループを受け持ち、話し合いのアドバイスをを行う）等の役割を分担します。

## ⑨津波避難に関する研修の準備

○津波災害に対するイメージを参加者の間で共有するため、地震や津波に対する基礎知識、東日本大震災における津波避難に関する課題や教訓、南海トラフ巨大地震による被害想定等について、学識経験者、防災担当職員、三重のさきもり、みえ防災コーディネーター等に解説していただく研修を実施します。

○このため、学識経験者等を選任し、講演等を依頼します。講演等のテーマ、時間について、講演者等と事前に打ち合わせをしましょう。

○学識経験者等の候補については、市町の防災担当部局、三重県防災対策部防災企画・地域支援課にお問い合わせください。

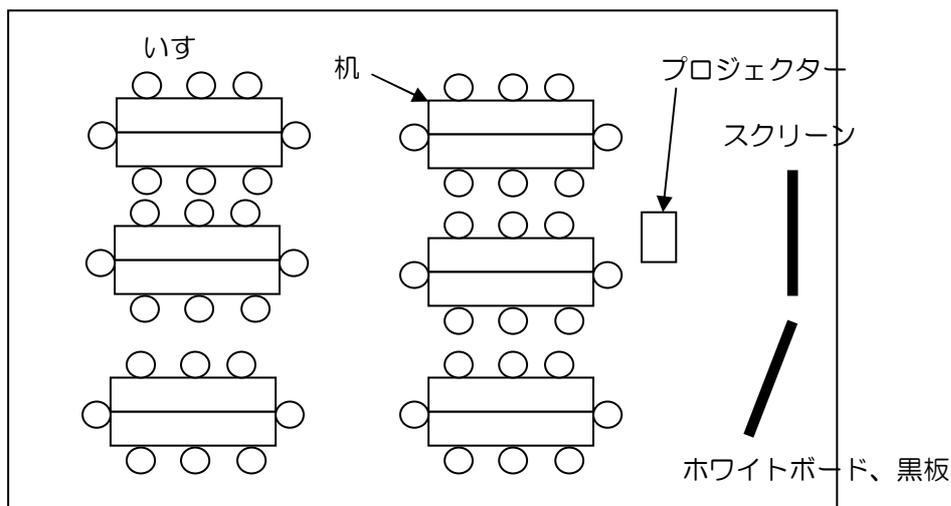
## ⑩会場の設営

- グループ分のテーブルを並べ、地図、道具、資料を配布します。
- 地図をテーブルに固定し、その上に透明シートを重ねてテープで固定し、ずれても修正できるように四隅に印をつけます。時間に余裕がないと想定される場合には、事前に、地図に透明シートをテープで張り付けておいたほうが良いでしょう。
- 各テーブルから見やすい位置にプロジェクターを配置します。

### ■会場の風景



### ■会場の設営例



## ⑪受付

- 受付に自治会の名簿等を用意し、参加者を確認した上で、グループ分けのテーブルに案内します。
- 参加者が想定よりも多くなった場合には、テーブルの追加等を検討します。

## (2) スケジュール (例)

(休日の午前中に開催した場合)

時間	内容	留意点等
9:00	開会とあいさつ	
9:10	津波避難に関する研修 (講演等)	学識経験者等による研修を行います。
9:40	全体スケジュールの説明 タウンウォッチングの準備	本日以降の全体スケジュールについて説明し、今後行うことを理解してもらった上で、タウンウォッチングの準備を行います。
10:10	タウンウォッチング	避難場所ごとにグループ分けして行います。
11:30	防災マップの作成	タウンウォッチングのまとめを行います。
12:00	グループごとの発表	
12:25	講評・まとめ	
12:30	閉会	

### ①あいさつ

○地域住民が参加する初回になるため、津波避難計画を作成する目的を説明します。特に、住民が主体となって行うことを説明し、理解してもらいます。

### ②津波避難に関する研修

- 研修は、プロジェクター等を活用して視覚的にわかりやすい内容にしましょう。
- この後に行うグループワークのための机の配置で良いでしょう。



### ③全体スケジュールの説明

○参加者に本日以降の全体理解してもらうため、全体のスケジュールを説明します。

	日時・場所	
第2回 (全体会議)	○月△日 □□公民館	学識経験者等の講演、タウンウォッチング、防災マップの作成
第3回 (全体会議)	○月△日 □□公民館	「My まっぷらん」の集計と課題、災害時要援護者の避難や自動車による避難、津波避難訓練で確認することの話し合い
第4回 (全体会議)	○月△日 □□公民館	津波避難訓練の実施、評価、今後の取組の話し合い
第5回 (コア会議)	○月△日 □□公民館	地域の津波避難計画の作成

#### ④タウンウォッチングの準備

○グループワークで使う図面（A0版）を机にセロテープで張り付け、その上に透明シートをセロテープで貼り、透明シートが動いても元の位置に戻せるように、図面の角に印をつけます。時間に余裕のない場合には、事前に準備しておいても良いでしょう。

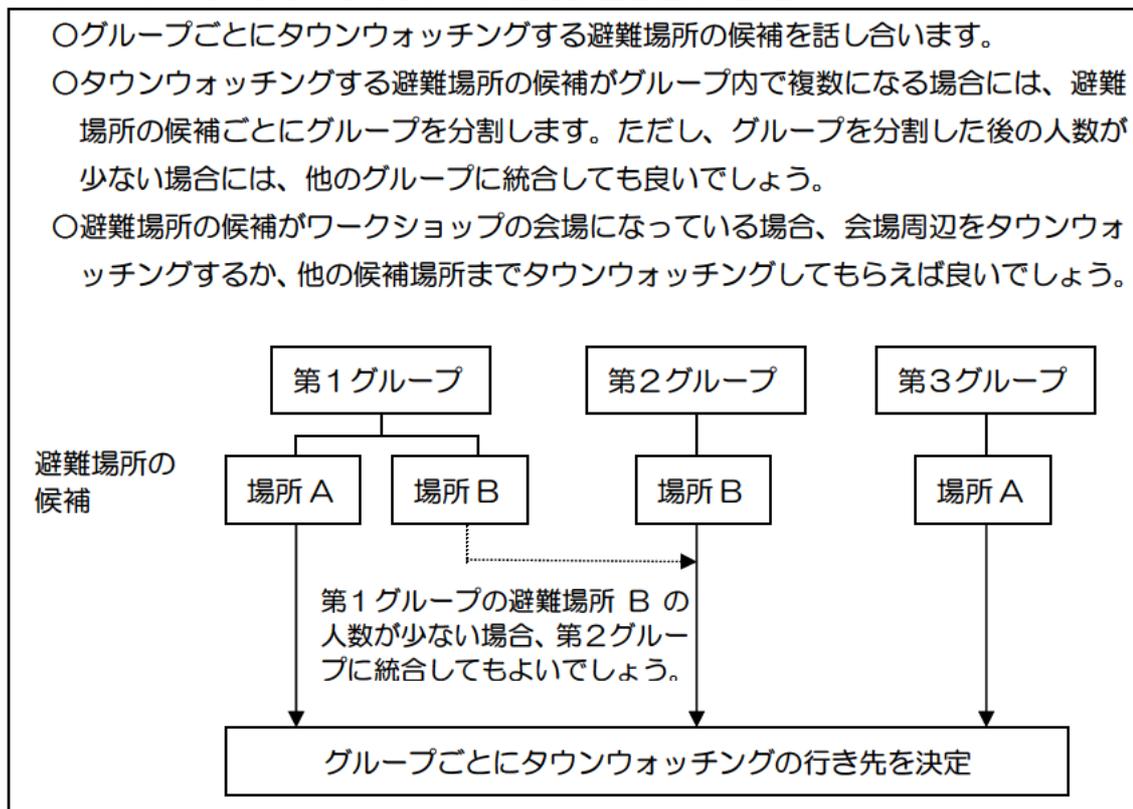
○タウンウォッチングの後に取りまとめる防災マップのうち、まちの構造の把握、津波避難場所の候補・避難経路の選定までのグループワークを行います。

#### ■防災マップの作成①

項目	内容	記入例
まちの構造の把握	鉄道、道路、河川・水路等を地図に記入し、津波避難時に障害となる施設等を確認します。	鉄道：黒の点線  主要な道路：茶色の線  河川・水路：水色の線 
津波に関する危険性の把握	津波浸水予測区域等を地図に記入します。説明用の資料を配布することで、代替しても良いでしょう。	区域の境界：オレンジ色の線 
津波避難場所の選定	津波浸水予測区域の外側（水平避難）あるいは最大津波高よりも高い施設（垂直避難）を選定します。 人によって津波避難場所が異なる場合は、複数選定します。	避難場所：緑色の斜線 



#### ■グループごとにタウンウォッチングを行う避難場所の設定



### ■グループ内でタウンウォッチング及びその後のワークショップの役割の決定

分類	役割		人数
	タウンウォッチング	ワークショップ	
リーダー	グループの行動を統括します。	話し合いの進行を行います。	1人
記録係	危険な場所、役に立つ場所等を地図に記録します。 (カメラ撮影)	各自の発言を付箋に記録します。	2～3人
時計係	区間ごとに歩いた時間を測ります。	—	1人
発表者	—	ワークショップのグループ発表を担当します。	1～2人
安全係	車が来たときに声を掛けます。		その他全員



### ■タウンウォッチングを行う避難経路の決定

○タウンウォッチングで確認する避難経路を話し合い、テーブルの図面及びタウンウォッチングの手持ち用図面に記入します。



### ■タウンウォッチングで確認することを参加者で共有

項目	内容
危険箇所（地震発生時に転倒・落下・倒壊の恐れのある場所）	ブロック塀、落下してきそうな看板・トランス、危険物（ガス、石油等）、ガラス張りのショーウィンドー等
一時的に避難できるところ	公園、空き地等
消火活動等を行う機材のあるところ	消火栓、消化器、防火水槽等
災害時に役に立つところ	病院、食堂、食料品店、公衆電話等
代替ルート	避難経路が通行できないときの代替ルート
避難場所の安全性	避難場所の広さ、安全性
避難所要時間	主要な区間ごとに歩くのにかかった時間の測定
その他	上記の他に気が付いたことの抽出

### ⑥タウンウォッチングの実施

- 選定した避難場所までの避難経路を中心に、上記を確認しながらまち歩きをします。
- グループごとに参加者全員の集合写真を撮ってから出発しましょう。また、上記の危険な場所等は、写真を撮って記録として残します。
- 1時間程度歩きますから、水筒等の持参を呼びかけておきましょう。



## ⑥防災マップの作成

○防災マップとは、地震が起こったときに危険な場所や物、または役に立つ場所や物が地図に記入されていて、災害時に役に立つ情報を得ることができる地図のことです。タウンウォッチングの結果を地図上に記入し、作成します。

### ■防災マップの作成②

項目	内容	記入方法
まちの構造の把握 (①で記入済)	鉄道、道路、河川・水路等を地図に記入し、避難時に障害となる施設等を確認します。	鉄道：黒の破線 道路：茶色の線 水路：水色の線
津波に関する危険性の把握 (①で記入済)	津波浸水予測区域等を地図に記入します。	オレンジ色の線
津波避難場所の選定 (①で記入済)	津波浸水予測区域の外側（水平避難）あるいは最大津波高よりも高い施設（垂直避難）を選定します。	緑色の斜線
危険箇所（地震発生時に転倒・落下・倒壊の恐れのある場所）	ブロック塀、落下してきそうな看板・トランス、危険物（ガス、石油等）、ガラス張りのショーウィンドー等	赤色の丸シールを張り付け、付箋に名前を記入
一時的に避難できる ところ	公園、空き地等	緑色の丸シールを張り付け
消火活動等を行う機 材のあるところ	消火栓、消火器、防火水槽等	青色の丸シールを張り付け
災害時に役に立つと ころ	病院、食堂、食料品店、公衆電話等	茶色の丸シールを張り付け

○続いて、タウンウォッチングの結果をもとに、避難のときの問題点、課題等を話し合い、付箋に記入して図面に貼り付けます。

### ■防災マップの作成③

項目	内容	記入方法
問題点、課題の抽出	タウンウォッチングの結果をもとに、グループ全員で話し合う。	付箋に記入し、図面に貼り付ける。

### ■防災マップの例



## ⑦グループごとに発表しましょう

- グループごとに話し合った以下の内容を発表し、会場の皆さんで意見の内容を共有しましょう。
- グループの数にもよりますが、1グループ2~3分程度とします。(6グループの場合、3分×6グループで18分。入れ替え等を考慮すると20分はかかります。)
- 発表時間3分の場合、2分でベルを1回、3分で2回鳴らし、発表者に時間を知らせると良いでしょう。

### ■グループごと発表する内容

- ①タウンウォッチングを行った避難経路、避難場所
- ②避難経路の危険な場所、役に立つ場所、問題点等

### 《こんなこともできます》 = タウンウォッチングの写真撮影とその印刷

- タウンウォッチングで確認した危険箇所や役に立つ場所等を写真撮影し、会場に戻ってきてから写真を印刷し防災マップに貼り付けることや、撮影した写真をグループ発表の時に映写すれば、タウンウォッチングの様子が良くわかります。
- 具体的には、カメラのSDカードを使って専用のプリンターの活用、あるいはパソコンに入力してプリンターで印刷します。プリンターでの印刷には時間がかかりますから、写真を1枚ずつ印刷すると、ワークショップの時間内にすべてのグループの写真を印刷できないこともあります。このため、複数の写真を用紙1枚に印刷して、グループの参加者にはさみで切り取ってもらう方法にすれば時間が短縮できます。また、パソコンに取り込んだ映像をグループごとに整理し、グループごとの発表のときに、写真をプロジェクターを使って映写します。

## ⑧次回に向けて

### <次回までの宿題⇒「My まっぷらん」の作成>

- 今回作成した防災マップを参考に、「My まっぷらん」に自分の避難場所、避難経路を記入してもらいます。「My まっぷらん」への記入は、地域の全住民を対象とするため、この会議で配布するのではなく、別途、全住民を対象に配布したほうが良いでしょう。

### <次回予定を説明しましょう>

- 次回の開催日時、会場、内容について説明しましょう。

## 「My まっぷらん」の配布

- 「My まっぷらん」を全住民に配布し、次回までに住民一人ひとりが津波避難計画を作成します。個人情報保護の観点から全住民への配布は大きな課題となります。自治会による広報等の配布手続きの活用、コアメンバーが手分けして各戸訪問する等、地域にあった配布方法の検討が必要です。
- 三重県は、平成 24 年度に伊勢市二見町今一色・西地区と熊野市有馬町芝園地区で、「My まっぷらん」を活用した地域における避難計画策定の実証のための取組を行いました。
- それぞれの地区では、「My まっぷらん」を次の方法で配布しました。これらの方法を参考に、地区にあった方法を検討しましょう。

### 《伊勢市二見町今一色・西地区》

- 地区の人口は、3,158 人、1,149 世帯です。地区の規模が大きかったため、自治会の組・班長さんに協力を依頼し、世帯ごとに配布しました。個人情報保護のため、自治会では世帯ごとの人数を正確に把握できず、何枚配布したらよいのか分からない等、配布に大変苦労されました。

### 《熊野市有馬町芝園地区》

- 地区の人口は、540 人、230 世帯です。地区の人口規模が比較的小さかったこともあり、市役所の担当者が分担して各世帯を訪問し配布しました。訪問により、住民の津波避難に関する意識や家庭での準備状況を知ることができ、大変有意義となりました。（しかしながら、市町の担当者が全世帯を訪問し配布することは一般的にはかなり難しいと考えられます。）

- なお、「My まっぷらん」の配布にあたっては、記入方法をお知らせするため、その方法を記載したチラシも同時に配布しましょう。

## ■「My まっぷらん」の配布説明用チラシ（様式5、様式集P18 参照）

### 芝園地区のみなさまへ

**みんなで津波に備えよう**  
一人ひとりの津波避難計画を作りましょう

本地区は、津波避難に関する三重県のモデル地区に選定されました。一人ひとりの津波避難計画を作成していただきながら、地域の皆さんと一緒に津波避難計画を作成していきます。この事業の説明会及びタウンウォッチングを10月7日（日）に開催しました。

次回の検討会では、一人ひとりが作成した避難計画をもちより、問題点などを話し合っていきます。このため、「My まっぷらん」を配布させていただきます。一人1枚ずつ「My まっぷらん」にご記入の上、次回の避難計画作成会議（10月19日（金）19時～19時45分）にご参加ください。なお、参加できない方は、班長さんにお渡しください。

#### My まっぷらんの作成方法

**●作成上の注意事項**

- 個人情報等で人に知られたくない情報は記入しないでください。（返却時に記入してください）

**●地図の作成方法**

- 地図上で、自宅に●を記入し、避難場所の候補に○を記入し、あなたがお考えの経路に線を引いてください。避難場所、経路が2つ以上ある場合には、優先する順に①、②と番号を記入してください。
- 避難時の交通手段（徒歩など）を避難経路の横に記入してください。
- 避難経路で危険な場所、不安なことがあれば、地図上に記入してください。



（原画もあります）

### ●My まっぷらんの作成手順

1. 「あなたの情報」の欄に氏名、住所、電話番号を記入してください。（一人1枚です）
2. 避難場所、避難経路をご家族で話し合い、仮設定してください
3. できれば、避難経路の候補をタウンウォッチング（まち歩き）し、危険な箇所がないか確認してください。（タウンウォッチングを実施済みの方などは、省略して結構です）
4. My まっぷらんの図面に自宅（●印）、避難場所の候補（○印）、避難経路（線で引く）、交通手段（徒歩等）を記入してください。危険な場所・不安なことなども地図上に記入してください。

次回会議（10月19日（金））に参加できる方 → 家族全員分のMy まっぷらんを持って会議に参加

次回会議（10月19日（金））に参加できない方 → 家族全員分のMy まっぷらんを班長さんに渡す

5. 避難計画の作成  
【日時】10月19日（金） 19時～21時  
【場所】有馬第一公民館

後日、My まっぷらんに返却します

**●注意事項**

- 乳幼児、高齢者等本人が記載できない場合は、世帯主等が記入してください。

問合せ先：熊野市防災対策推進課 電話：89-4111（内線315・336）

## 第3回（全体会議） 「My まっぷラン」を集計し、避難行動を検討する

### 【概要】

- 地域住民一人ひとりが作成し持参した「My まっぷラン」の避難場所と避難経路を集計し、問題点（避難場所の広さ・収容人員、道路への人の集中等）を話し合います。
- 避難の際の行動（災害時要援護者の避難、自動車による避難等）について、グループで話し合います。
- これらの話し合いにより、避難の際にどのように行動したらよいか、地域で検討すべき課題を共有します。

### ポイント

#### ○「My まっぷラン」の作成と会議への持参

- ・今回の会議までに地域の全住民に「My まっぷラン」記入用紙を配布し、一人ひとりが津波避難計画を作成し、会議に持参します。会議に参加できない人は、地域の代表者等に渡します。家族や近所の人と話しあって作成することで、津波避難に関する意識の向上、地域の防災力向上につながります。

#### ○「My まっぷラン」の集計と課題の抽出

- ・「My まっぷラン」を持ち寄り、自治会の班単位等で避難場所と避難経路を集計し、参加者で意見交換します。自分とは異なる考え方がわかり、参考になります。
- ・「My まっぷラン」の集計結果は、下図のように図化することで誰にも分かりやすくします。

#### ○避難の際の行動等の話し合い

- ・「My まっぷラン」を取り入れれば全ての課題が解決するわけではなく、災害時要援護者の避難や自動車による避難等については、地域でどのような方法で対応していくのか、話し合い、意見を引き出します。

#### ■「My まっぷラン」の集計結果



#### ■課題の検討イメージ

課題	内容	解決策
車での避難	避難場所の確保、避難経路の確保、避難車両の確保	避難場所の確保、避難経路の確保、避難車両の確保
要援護者の避難	避難場所の確保、避難経路の確保、避難車両の確保	避難場所の確保、避難経路の確保、避難車両の確保
その他	避難場所の確保、避難経路の確保、避難車両の確保	避難場所の確保、避難経路の確保、避難車両の確保
次回避難訓練と発表1回と		第4グループ 2班

## (1) 事前の準備

○会場の設営は、第2回と同様です。

○参加者には、「Myまっぷらん」を持参してもらいます。参加できない人は、事前に、「Myまっぷらん」を班長等の代表者に渡しておきます。「Myまっぷらん」を預かった人は、その人のグループのテーブルに配布しておきます。

(配布資料は、様式6、様式集P20参照)

### ■準備物リスト

用途	準備物		数量	
	種類	使い方	グループごと	全体
グループワーク	透明シート	・地図の上に重ねて情報を書き込んだり、付箋紙を貼ります。	1	
	マジックペン (各種の色)	・地図記入用 ・透明シートを重ねて使う場合は油性、地図に直接記入の場合は水性	1セット	
	新聞紙	・机の保護(なくても可)	1日分	
	アンメルツ等 (ベンジン)	・マジックペンの修正に使用	1	
	色丸シール(各種の色)	・透明シートあるいは地図に貼って各種の情報を示す	数枚ずつ	
	付箋紙(各種の色)	・意見や情報の場所の名称を書き込む	数種類	
	サインペン	・付箋紙等への書き込み	数本	
	セロハンテープ	・地図と透明シートの固定	1	
	模造紙	・テーマについて検討内容を記入	テーマ数	
	パソコン、プロジェクター、スクリーン	・作業内容の説明、写真映像の撮影		1
	マイク	・説明用		1
グループ発表	グループ札(各テーブルに置くもの)	・グループの名前等	1	
	ベル	・発表の時間を知らせる		1
	タイマー	・発表時間を測る		1
	ホワイトボード、黒板等	・発表のシートを張り付ける	適宜	

## (2) スケジュール (例)

(平日の夜に開催した場合)

時間	内容	留意点
19:00	開会とあいさつ	
19:10	これまでの振り返り	初めて参加する方もいるので、これまで行ってきたことを説明します。
	「Myまっぷラン」の集計と課題整理	各テーブルごとに集計します。
19:50	津波避難の際の行動について話し合う	災害時要援護者の避難、自動車での避難等
	津波避難訓練で確認することを話し合う	避難の所要時間を図る等
20:20	グループごとの発表	
20:50	講評・まとめ	
21:00	閉会	

### ① これまでを振り返りましょう

○初めて参加される人もいますので、前回までに行ってきた内容を簡単に紹介します。成果物があれば、実物あるいはプロジェクターを使って紹介するとよくわかるでしょう。

回	日時、場所、	検討内容
第2回 タウンウォッチング	日時：〇〇月〇〇日 ( ) 場所：△△公民館	<ul style="list-style-type: none"> <li>〇〇先生の講義</li> <li>タウンウォッチング</li> <li>防災マップの作成</li> </ul>



### ② 作業を始める前に役割を決めましょう

○集計作業を始める前に、グループごとに次の役割を決めましょう。

- ・リーダー（作業の統括、話し合いの司会・まとめを担当）1人
- ・記録係（グループの意見を付箋に書く人）2～3人
- ・発表者（グループ発表する人）1人

③作業1 避難場所・経路を集計し課題を整理しましょう

○各グループで「Myまっぷラン」を集計し、避難場所と避難経路ごとの人数を把握し、課題を抽出しましょう。

① 「Myまっぷラン」を避難場所ごとに仕分けしましょう。  
 ・「Myまっぷラン」を避難場所ごとに分類して仕分けしましょう。

②避難場所ごとに主なルートで仕分けしましょう。  
 ・詳細なルートで分類すると数が多くなるので、主なルートごとに分類しましょう。

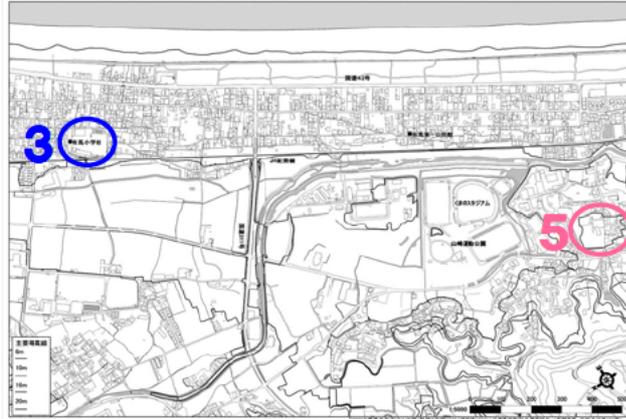
③避難場所、ルートごとの枚数（人数）を数えましょう。  
 ・メモできる用紙を配布しておきます。

避難場所	ルート	枚数（人数）
A	a	〇〇枚
	b	△枚
B	c	□□枚

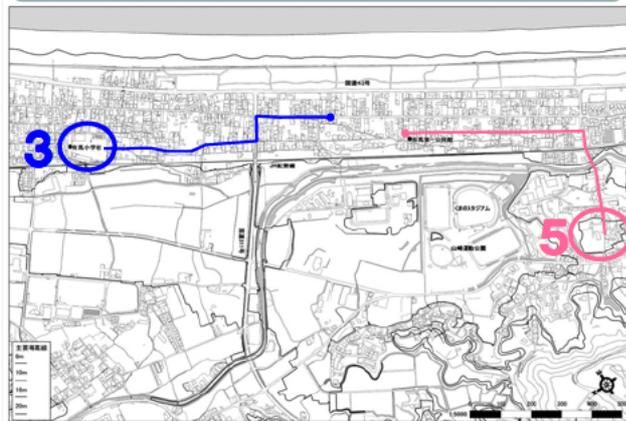
④図面に避難場所とその人数を記入し、一人ひとりの避難経路をマジックで図化し、人数を書き込みましょう。  
 ・同じルートの人が複数の場合には、1本の線の横に人数を書いておけばよいでしょう。

【集計作業例】

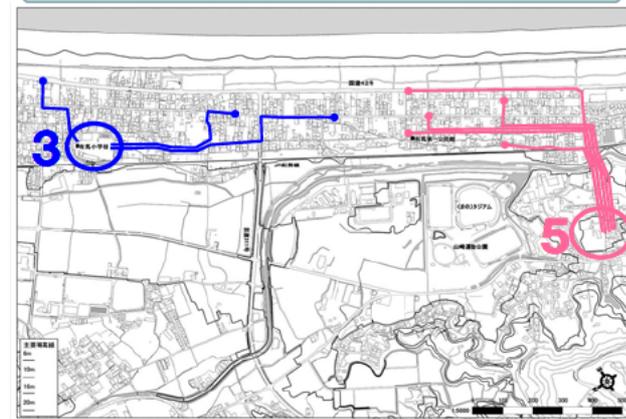
● 避難場所として設定している人の数を記入します



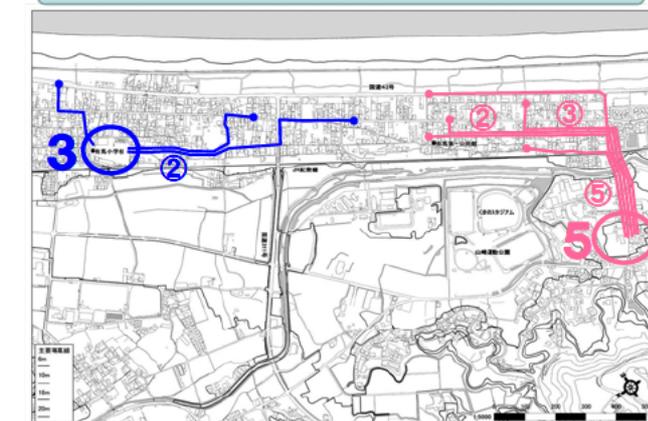
● 一人ひとりの避難経路を記入します



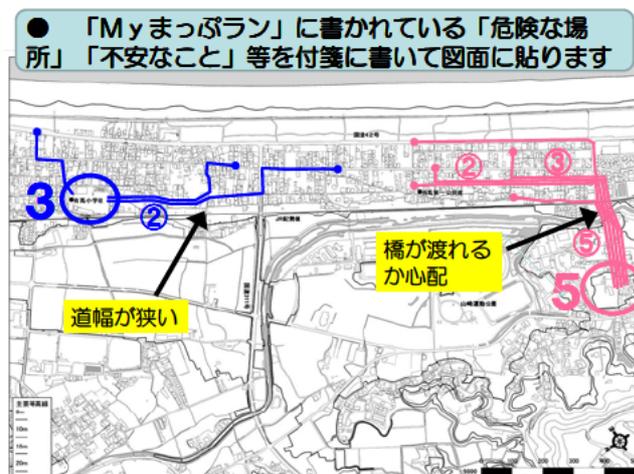
● 一人ひとりの避難経路を記入します



● 人が集中している主要な道に、人数を記入します

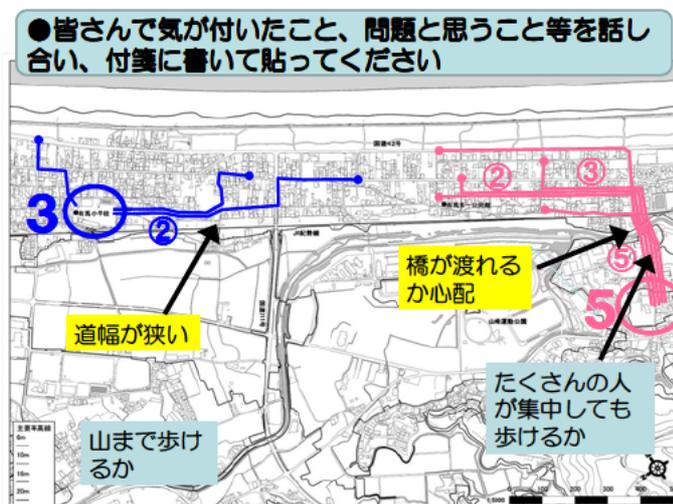


⑤「Myまっぷラン」に記入されている「危険な場所」「不安なこと」等を付箋に書いて、図面に貼ります。



⑥グループの参加者で、気が付いたこと、問題と思うこと等を話し合い、付箋に書いて図面に貼ります。

(例えば、道路が混雑しないか、国道を横断できるか、道路が通行できなくなったらどうするか、避難時間はどうか 等)



#### ④作業2 避難の際の行動について話し合いましょう

- これまでに実施したコアメンバー会議、前回の検討会において、課題として出された事項について、課題の内容、解決方法を話し合います。
- 災害時における避難を検討し、計画を策定する場合においては、災害時要援護者の避難対策、自動車による避難は常に大きな課題とされています。
- このため、災害時要援護者と自動車による避難をテーマに、参加者で意見交換します。

#### ア. 災害時要援護者の避難について

##### 1) 災害時要援護者とは

- 災害時要援護者とは、日本赤十字社「災害時要援護者対策ガイドライン」によると、「災害から身を守るため、安全な場所に避難する等の一連の防災行動をとる際に、支援を必要とする人々」とされており、具体的には、

- ・心身障がい者（肢体不自由者、知的障がい者、内部障がい者（透析者等）、視覚・聴覚障がい者）
- ・認知症や体力的に衰えのある高齢者
- ・日常的には健常者であっても理解力や判断力の乏しい乳幼児
- ・日本語の理解が十分でない外国人
- ・一時的な行動支障を負っている妊産婦や傷病者

となっています。

##### 2) 「My まっぷらん」との関係

- 「My まっぷらん」を作成できない災害時要援護者が住民と同じペースで「My まっぷらん」を作成することは困難であると考えられます。一方、災害時要援護者ごとに避難支援の方法等を具体的に示す個別計画の作成が進んでいます。このため、「My まっぷらん」と「災害時要援護者の個別避難支援計画」は、両立しながら、互いに補完していく関係が望ましいといえます。

##### 3) 検討内容

- 県内の市町では、災害時要援護者の避難対策として名簿の作成等の対策が進められていますが、個別の災害時要援護者の避難に関する取組については、ようやく始まったばかりの市町が多いのが実態です。
- 三重県では、津波襲来までの時間が短い熊野灘沿岸地域等においては、災害時要援護者の避難支援と、支援者の安全確保との兼ね合いが最も困難となるであろうことから、災害時要援護者自らの避難対策とともに、地域や行政の支援の在り方、方法を検討することが大きな課題となっています。
- 災害時要援護者の避難については、自らの避難対策に加えて、地域や行政が連携して



情報の共有やきめ細かな対策を進める必要があり、地域で以下の観点から話し合いを行うことが必要です。

- ・災害時要援護者の情報の共有
- ・災害時要援護者及び支援者の人数の把握
- ・リヤカー等、避難のための設備の確保
- ・自動車による避難を含めた避難方法の検討

## イ. 自動車による避難について

### 1) 検討内容

○三重県沿岸部において想定される震度が6弱から7であることを考えると、道路自体が崩壊したり、液状化によるマンホール浮き上がり等により、道路に大きな被害が生じるとともに、倒壊した建物、電柱、看板等の障害物により自動車の通行に支障が生じる可能性は高いと考えられます。

○このような道路の被害に加えて、多くの人が自動車により避難したとすれば、津波発生後の短時間に自動車に殺到し、発生した交通渋滞により避難自体が困難になるとともに、消防、警察、自衛隊等の救助機関の活動に支障を生じる可能性が極めて高いと考えられます。したがって、徒歩により避難が可能な場合は徒歩により避難すべきです。

○他方で、①徒歩による避難が困難な乳幼児、高齢者、障がい者、負傷した者等の災害時要援護者の避難、②津波到達時間や避難場所までの距離を勘案し、自動車でなければ避難が困難である地域における避難については、自動車による避難を初めから排除すると、津波避難計画を立てること自体が難しく、実際の避難も困難となる場合もあります。

○したがって、上記の2つの場合に限定したうえで、自動車による避難を模索する際には、以下の観点について地域で話し合いを行い、結論を得る必要があります。



- ・誰（災害時要援護者）を自動車で避難させるのか。
- ・誰（支援者）が災害時要援護者を自動車で乗せ、運転するのか。
- ・道路や橋梁の予想される被害状況（耐震改修の状況、液状化の危険性等）
- ・交通量や渋滞発生の恐れのあるポイント
- ・具体的な避難ルートにおける通行の障害等（ブロック塀や電柱の倒壊による通行ができない可能性、道路幅が狭小なため、徒歩避難者がいる場合は自動車が通行できない可能性、踏切等）
- ・避難場所又はそこに至るまでの道路における自動車の駐車可能場所、台数

○その話し合いを行うに当たっては、タウンウォッチング等で道路への家屋倒壊の危険性、ブロック塀や電柱等の状況、交通量等を実際に見つつ、検討を行うことが必要です。

○その検討の際には、地震の発生日時は特定することができないこと、昼夜の時間帯によって、通勤・通学・通院等により、災害時要援護者や支援者の地域での滞在状況が異なることや交通量も異なることから、時間帯により複数のパターンを検討していくことが必要です。

○また、道路や橋梁がどの程度損傷し、自動車による通行が可能かどうかも事前には分からないことに留意する必要があります。したがって、自動車による避難を検討するうえで一つの避難経路のみではなく、複数の避難経路を考えておく必要があります。さらに、自動車の通行ができない道路状況となる場合も十分考えられることから、車いす、リヤカー等他の方法による避難についても併せて検討しておくことが必要です。

## 2) 「Myまっぷラン」との関係

○自動車による避難が可能と判断した場合は、

「Myまっぷラン」に避難場所と避難経路に加えて自動車により避難すること等を明示します。具体的には、①災害時要援護者等、自動車に乗り避難する人とその自動車を運転する人（支援者）、②自動車に乗り込む集合場所を記載します。なお、道路の障害等により自動車による避難ができない場合も考え、代替の避難方法、避難経路等についても記載します。

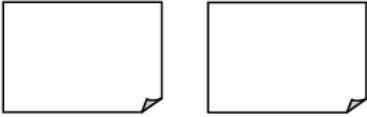
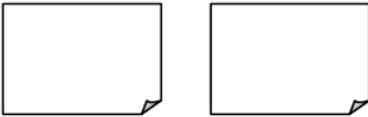
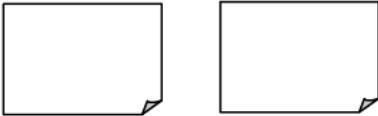


○それぞれで検討した「Myまっぷラン」を地域で集約する際に、実際に避難が可能か、避難に用いる自動車の数量がその地域の限界量を超えていないか、運転者である支援者が不足していないか等について検証し、地域の限界量を超えている場合等は「Myまっぷラン」を改める必要があります。このように地域での話し合い・検証を通じ、自動車による避難について地域で意思決定をしていく必要があります。

## ウ. 話し合いのまとめ

○災害時要援護者の避難、自動車での避難について、課題の認識と対応策をまとめます。意見は、付箋に書いて、模造紙に貼りつけます。出された意見全てを書くようにし、解決策が出なくても、課題として整理しましょう。

■模造紙の例と付箋の貼り付けイメージ

テーマ	課題	改善方法
災害時要援護者の避難		
自動車による避難		
その他		

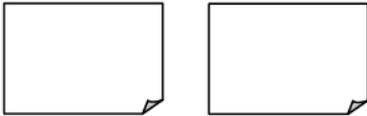
⑥作業3 次回の避難訓練で行うことを話し合いましょう

○次回の避難訓練のときに、一人ひとりで行うことを話し合い、共通認識します。意見の内容は、模造紙に付箋紙で貼ります。

○作業②の模造紙にこの項目を追加しておいてもよいでしょう。

テーマ	意見の例
避難訓練で行うこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難場所までの所要時間を図る。</li> <li>・非常持ち出し品を持って避難訓練に参加する。</li> <li>・避難訓練までに非常持ち出し品の中身をチェックする。</li> </ul>

■模造紙の例と付箋の貼り付けイメージ

テーマ	内容
次回の避難訓練で行うこと	

## ⑥グループごとに発表しましょう

- グループごとに話し合った以下の内容を発表し、会場の皆さんで意見の内容を共有しましょう。
- グループの数にもよりますが、1 グループ 2～3 分程度とします。（6 グループの場合、3 分×6 グループで 18 分。入れ替え等を考慮すると 20 分はかかります。）
- 発表時間 3 分の場合、2 分でベルを 1 回、3 分で 2 回鳴らし、発表者に時間を知らせると良いでしょう。

### ■グループごと発表する内容

- ①避難場所と避難経路の人数
- ②避難経路の危険箇所、不安なこと、対応方策 等
- ③避難の際の行動（課題と対応策）
  - ・災害時要援護者の避難について
  - ・自動車による避難について
- ④避難訓練で実施したいこと

## ⑦次回に向けて

### 《講評とまとめをしましょう》

- 司会がグループ発表の講評とまとめをしましょう。
- 学識経験者等をお願いしても良いでしょう。

### 《次回予定を説明しましょう》

- 次回の開催日時、会場、内容について説明しましょう。

## 第4回（全体会議） 津波避難訓練を実施し、今後の取組を検討する

### 【概要】

- 「My まっぷラン」に記載した避難場所と避難経路をもとに、津波避難訓練を実施します。
- 津波避難訓練実施後に、津波避難訓練の評価、今後の取組についてワークショップを行います。

### ポイント

#### ○津波避難訓練の実施時期

- ・「My まっぷラン」に基づき津波避難訓練を行うことによって、ワークショップで話し合ったことを検証し、新たな課題を抽出します。
- ・最初は多くの人に参加しやすい時期（休日の午前中等）に行うことが望ましいですが、季節や時間によって非常持ち出し品や服装等、準備するものが異なることから、季節や時間（朝、昼間、夜間等）を変えた津波避難訓練を継続的に実施することも必要です。

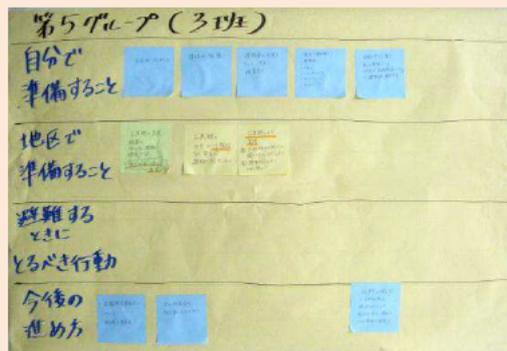
#### ○津波避難訓練の後のワークショップ

- ・これまでの津波避難訓練は、終了後に自由解散となることが多いですが、これでは津波避難訓練を実施した効果や課題を検証できません。津波避難訓練を実施した後にワークショップで課題等を話し合えば、非常に効果があります。
- ・ワークショップでは、避難時間の目標を達成したかどうか、津波避難訓練でできたこと・できなかったこと等、「My まっぷラン」の実効性の検証や地域における課題を浮かび上がらせる必要があります。
- ・このため、津波避難訓練の前にアンケート調査票を配布しておき（津波避難訓練の告知チラシと合わせて配布等）、津波避難訓練実施後のワークショップで、避難目標時間の達成状況、防災マップに記載した内容の検証、津波避難訓練でできたこと・できなかったこと等について、記入してもらいます。

#### ○課題に対する取組の方向性の検討

- ・防災マップに落とし込んだ内容や、第3回で課題に挙げた事項を、今後どのようにして取組んでいくのか話し合います。
- ・地域における津波避難の目標と今後検討していく内容等を整理し、地域の津波避難計画のもとになる内容を整理します。

#### ■取組方向の検討イメージ



## (1) 事前の準備

### ①津波避難訓練の広報チラシとアンケート票の作成・配布

○津波避難訓練は、地域の住民が参加しやすい日時（日曜日の午前中等）にセットしましょう。

○津波避難訓練に多くの住民に参加してもらうため、事前に広報チラシを配布します。また、目標を持って津波避難訓練に参加してもらうため、広報チラシの裏面に「参加者アンケート」を記載し「避難場所と避難時間の目標」を書き込んでもらいます。このアンケートは、津波避難訓練の後にも使いますので、津波避難訓練のときに持参してもらうようにします。

#### ●アンケートの項目

訓練の事前に記入：属性（住所、年齢、性別）、目標とする避難場所と避難時間

訓練の後に記入：実際にかかった時間と目標の達成度、津波避難訓練時の対応状況（合図が聞こえたか、合図の後すぐに避難できたか、避難経路で危険と思ったこと等）、「Myまっぷらん」の有効性、津波避難訓練でできたこと・できなかったこと 等

#### ■津波避難訓練の広報チラシの例（様式7、様式集P31 参照）

熊野市有馬町芝園地区のみなさまへ

## いざという時のために 芝園地区一斉津波避難訓練を行います！

**日時** 平成24年11月25日（日） 午前9時～12時

**スケジュール**

9:00 自宅から津波避難訓練開始

↓ \*非常持ち出し品を持って参加しましょう！

自分で考えた津波避難場所へ

↓

10:00 有馬第一公民館に集合  
＜グループごとに津波避難訓練のまとめ＞

↓

12:00 終了

**お願い**

◎訓練の事前に、裏面のアンケートに記入してください。  
◎当日は「Myまっぷらん」と、この「チラシ」を持参して下さい。

訓練当日に、防災行政無線で訓練開始の合図をします。

●問合せ先：  
熊野市防災対策推進課  
電話：89-4111  
(内線 315・336)

**避難訓練参加アンケート**

設問には、該当する番号に○をつけ、その他は、具体的にお書きください

**【避難訓練の事前に記入してください】**

1 あなたについて

芝園( )班 年齢( )歳 性別( 男・女 )

2 目標とする避難場所及び避難時間をお書きください。

避難場所:①金山 ②鉄塔 ③有馬第一公民館 ④有馬小学校 ⑤その他( )

避難時間: ( )分 ※三重県の予測では、最大津波到達時間 13分

**【避難訓練が終わった後に記入してください】**

3 ご自宅から避難場所に着くまでにかかった時間は？

( )分 ①目標以内 ②目標通り ③目標より時間がかかった

4 避難訓練の状況について、該当するものを選んでください。

防災無線による避難の合図は聞こえましたか	①聞こえた	②音が小さく、聞こえにくかった
合図の後、すぐに避難できましたか	①すぐに避難できた	②避難するまでに時間がかかった
避難経路で危険だと思ったことがありましたか	① あった	② ない
		具体的に

5 「Myまっぷらん」を使って避難経路などを事前に計画したことは役に立ちましたか

①役に立った ②少しは役に立った ③あまり役に立たなかった ④わからない

6 避難訓練でできたこと、できなかったことや問題点がありますか？

(できたこと) 例えば、目標の時間内に避難できた。

(できなかったこと、問題点) 例えば、非常持ち出し品を準備できなかった。

7 今後の課題、改善点、ご感想など、自由にお書きください。

## ②津波避難訓練の準備

- 津波避難訓練開始のアナウンス方法（防災無線での放送等）とその時刻等を決めておきましょう。
- 津波避難訓練では、災害時要援護者の避難訓練（車いす、リヤカーでの避難等）を行うことも検討しましょう。

## ③ワークショップの準備

- 会場の設営は第2回と同様で、津波避難訓練後のワークショップのための準備をします。
- 「My まっぴらん」の集計結果と、前回のワークショップで出された主な意見を地区全体で集計し取りまとめ、配布資料を作成します。

### ■準備物リスト

用途	準備物		数量	
	種類	使い方	グループごと	全体
	新聞紙	・机の保護（なくても可）	1日分	
	付箋紙（各種の色）	・意見や情報の場所の名称を書き込む	数種類	
	サインペン	・付箋紙等への書き込み	数本	
	模造紙	・テーマについて検討内容を記入	テーマ数	
	パソコン、プロジェクター、スクリーン	・作業内容の説明、写真映像の撮影		1
	マイク	・説明用		1
	グループ札（各テーブルに置くもの）	・グループの名前等	1	
グループ発表	ベル	・発表の時間を知らせる		1
	タイマー	・発表時間を測る		1
	ホワイトボード、黒板等	・発表のシートを張り付ける	適宜	

（配布資料は、様式8、様式集P33参照）

## （2）スケジュール（例）

時間	内容	留意点
9:00	津波避難訓練の開始	津波避難訓練後にワークショップがあることをアナウンスする。
10:00	ワークショップ開始 ・津波避難訓練アンケートの実施 ・これまでの振り返り ・津波避難訓練の評価 ・今後の取組み	地域の津波避難計画の元になります。
11:20	グループごとに発表	
11:40	全体の講評	
12:00	閉会	

### ①津波避難訓練の実施

○防災無線等を使って、津波避難訓練開始のアナウンスを行います。

「ただいまから、〇〇地域津波避難訓練を行います。津波避難訓練の後、〇〇時から△△でワークショップを行います。」

○参加者が避難場所に到着した後は、ワークショップを行う会場まで戻ってきてもらいます。

### ②ワークショップの開始 ⇒ 津波避難訓練アンケートへの記入

○会場に戻ってきたら、津波避難訓練アンケートを配布し、記入してもらいます。アンケートは、この後のワークショップで活用しますので、終了時まで各自で保有してもらいます。

### ③これまでを振り返りましょう

○地域の全住民を対象とする最終の会議になるので、これまでの活動内容について、簡単に振り返ります。これまでの活動内容の写真、成果物等をプロジェクターを使って紹介するとよくわかるでしょう。

#### ■これまでの振り返り

	日時、場所、	検討内容
第2回 タウンウォッチング	日時：〇〇月〇〇日（ ） 場所：△△公民館	・〇〇先生の講義 ・タウンウォッチング ・防災マップの作成
第3回 津波避難計画の作成	日時：〇〇月〇〇日（ ） 場所：△△公民館	・「Myまっぷらん」の集計と課題整理 ・災害時要援護者の避難、自動車による避難 ・津波避難訓練で確認すること

### ④作業を始める前に役割を決めましょう

○グループごとに次の役割を決めましょう。

- ・リーダー（作業の統括、話し合いの司会・まとめを担当）1人
- ・記録係（グループの意見を付箋に書く人）2～3人
- ・発表者（グループ発表する人）1人

### ⑤津波避難訓練の評価

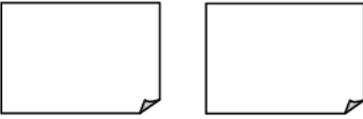
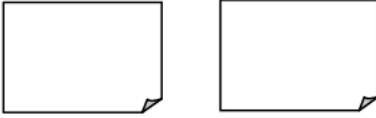
○本日の津波避難訓練の成果、課題を話し合います。

○出された意見は、付箋に書いて、模造紙に貼りつけます。

#### ■話し合いのテーマと意見の例

テーマ	内容	意見の例
避難時間と目標	避難に要した時間、事前の目標を達成できたかどうか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・〇〇分～△△分</li> <li>・ほぼ目標達成できた。</li> </ul>
津波避難訓練の評価	津波避難訓練のできたこと、できなかったこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標時間内に避難場所に到達できた。</li> <li>・非常持ち出し品を準備できなかった。</li> </ul>

#### ■模造紙の例と付箋の貼り付けイメージ

テーマ	内容
避難時間と目標	
津波避難訓練のできたこと	
津波避難訓練でできなかったこと	

○意見交換する際には、地域の図面があったほうが話しやすいため、「防災マップ」をテーブルに置いておきましょう。

## ⑥今後の取組み

○次のテーマについて意見交換します。出された意見を付箋に書いて、模造紙に貼りつけます。

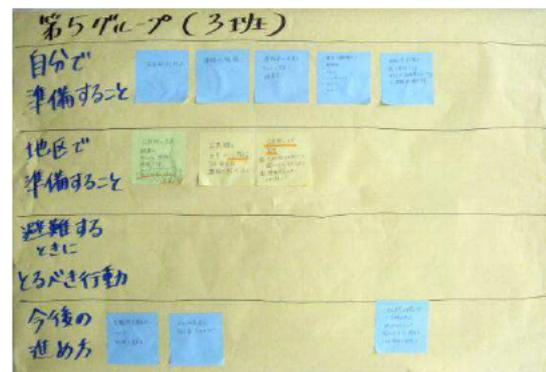
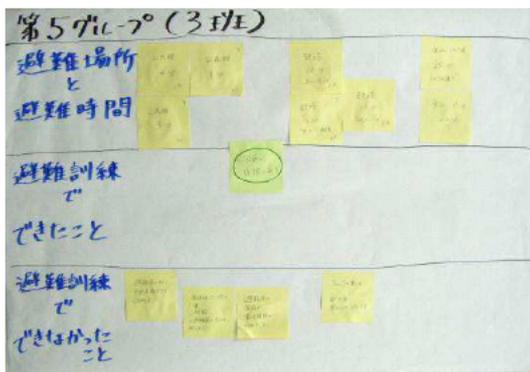
### ■話し合いのテーマと意見の例

テーマ	内容	意見の例
自分で準備すること	津波避難の準備として自分、家族ですること	・家の耐震補強、家具の転倒防止を行う。
地域で準備すること	津波避難の準備として地域ですること	・夜の避難訓練を行う。 ・自動車での避難について話し合う。
避難するときの行動	津波避難のときにとるべき行動	・近所の声をかけて避難する。
今後の進め方	今後、地域でどのような取組みをおこなうか	・毎年、津波避難訓練と話し合いを行う。

### ■模造紙の例と付箋の貼り付けイメージ

テーマ	内容
自分で準備すること	
地域で準備すること	
避難するときにとるべき行動	
今後の進め方	

### ■検討事例



### ⑦グループごとに発表しましょう

- グループごとに話し合った以下の内容を発表し、会場の皆さんで意見の内容を共有しましょう。
- グループの数にもよりますが、1グループ2～3分程度とします。（6グループの場合、3分×6グループで18分。入れ替え等を考慮すると20分はかかります。）
- 発表時間3分の場合、2分でベルを1回、3分で2回鳴らし、発表者に時間を知らせると良いでしょう。

#### ■グループごと発表する内容

- ①本日の津波避難訓練の成果、課題
- ②今後、地域で準備すること
- ③今後の取組み

### 《講評とまとめをしましょう》

- 司会がグループ発表の講評と全体を通してのまとめをしましょう。
- 学識経験者等にもお願いしても良いでしょう。

## 第5回（コア会議） 地域の津波避難計画を作成し、今後の取組を検討する

### 【概要】

- これまでの活動を振り返り、地域の津波避難計画について話し合い、作成します。
- 今後の取組について検討します。

## ポイント

### ○これまでの活動の成果、課題の確認

- ・これまでの活動を振り返った中で、成果や課題等を話し合い、今後行うべき活動やその内容等について話し合います。

### ○地域の津波避難計画の作成

- ・コアメンバーが市町の協力を得ながら作成した素案をもとに、地域の津波避難計画に記述する内容等を協議し、作成します。

### ○PDCAの実施

- ・次回までの目標と実施方策を設定し、実行に移していくPDCAサイクルを確認します。

### ■地域の津波避難計画（案）の例（様式 11、様式集 P49 参照）

平成25年1月作成

#### 熊野市有馬町芝園地区 津波避難計画(案)

**■地区の概況**

世帯数	人口	65歳以上人口	うち単身	75歳以上人口	うち単身
233世帯	540人	180人	41人	107人	31人
—	100%	33.3%	7.6%	19.8%	5.7%

要保護者数

要保護者数	幼児・児童数
76人（80歳以上）	
うち独居者が23人	

**■平成23年度 三重県津波浸水予測(M9.0)**

50cm津波到達時間	最大津波到達時間	最大津波高
4分	13分	14.13m

**■津波避難にむけた地域の目標**

(基本目標)

**『地域の全員が津波から助かるよう努力しよう』**

(今から行う具体的な目標)

- まず、家族、近所で防災について話し合います
- 非常時の持ち出し品は、自分で考えて自分にあったものを用意しましょう
- 市の補助を活用して家具を固定しましょう
- いざという時のために防災訓練に参加し、みなさんと防災について話し合います

**■津波から逃れるための準備**

自分で準備すること	地区で準備すること(課題)
<ul style="list-style-type: none"> <li>○定期的に非常持ち出し品をチェック(賞味期限、季節にあった衣類等)、持ち出しできる重さを確認しましょう</li> <li>○家具の転倒防止、建物の耐震補強をしましょう</li> <li>○懐中電灯(定期的に乾電池の確認)、運動靴、ライフジャケット等の非常用品を準備しましょう</li> <li>○高齢者等の移動手段を準備しましょう(リアカー等)</li> <li>○家族の避難先・連絡先、避難先となる知り合いを確認しましょう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○防災資機材の確認、毛布・食料品などの備蓄品を確保</li> <li>○公民館の避難場所としての機能向上(耐震補強、備蓄、屋上階階の確保、鍵の運用等)に向けた検討・調整</li> <li>○避難タワーの建設を要望</li> </ul>

**■避難方法**

車での避難	要保護者の避難
<ul style="list-style-type: none"> <li>○要保護者には有効であるが、交通渋滞及び避難の障害になるため、歩ける人は歩いて逃げましょう。</li> <li>○自転車も活用しましょう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○逃げながら要保護者に声をかけましょう。</li> <li>○リアカーなどを使って近所で助け合って避難しましょう。</li> <li>○家庭でできることを準備しましょう。</li> <li>○要保護者の名簿をつくり、どのような方法で保護するか地域で話し合います。</li> </ul>

**■今後の取組**

- 個人や地域の状況の変化に合わせて、「Myまっぶらん」とこの避難計画を更新します。(平成24年11月のMyまっぶらん記入者243名)
- 毎年、避難訓練を実施し、避難訓練実施後に訓練の成果の確認、車での避難や要保護者の支援等について話し合う場をもちます。

**■『Myまっぶらん』についての評価**

○平成24年度の津波避難計画作成ワークショップに参加した方のアンケートによれば、「Myまっぶらん」は、「役にたった」「少しは役に立った」という人が74%になり、「あまり役にたたなかった」という人は16%です。

**■津波避難計画参加者の意見**

- これからも避難訓練を行って、地域の防災力を高めていきましょう。まだまだ、避難訓練に参加していない人もいます。家族だけではなかなか話しあうことができないので、このような取組を継続していく必要があります。
- 災害時要保護者の避難については、人によって避難補助の程度が違います。屋間は地区に人がいないので、みんななどのように避難するのが、検討することが必要です。
- 今回の取組みて、近所の人と防災について話しをする機会が増え、意識が高くなりました。

【問い合わせ先】  
熊野市防災対策推進課 電話89-4111(内線315・336)

- 45 -

## (1) 事前の準備

### 《地域の津波避難計画（案）の作成》

- 前回までのワークショップで話し合った内容をもとに、地域の津波避難計画（案）を作成します。
  - 地域の津波避難計画に掲載する内容を検討し、津波避難計画図（案）を作成します。
  - 津波避難計画図（案）は、タウンウォッチング及び前回までのワークショップで作成された図面をもとに、避難場所、避難経路、危険な場所、役に立つ場所等をまとめます。
  - 配布用資料（A3 版程度）のほか、ワークショップで使う拡大版（A0 版程度）も用意します。
- （配布資料は様式 9・様式集 P43、及び様式 10・様式集 P44 参照）

## (2) 会議次第

### ①これまでの振り返り

- これまで行ってきた活動の概要を説明します。

### ②地域の津波避難計画(案)の協議

- これまでの活動のまとめとして、地域の津波避難計画（案）（A3 版両面程度）を提示し、意見を伺います。地域の津波避難計画に掲載する内容は、地域独自で決めますが、例えば、次のような項目が考えられます。

#### ■地域の津波避難計画に掲載する項目例

項目	内容
地域の概況	・人口、世帯数、高齢者人口等
津波浸水予測	・三重県による予測（M9.0）の 50cm津波到達時間、最大津波到達時間、最大津波高さ
津波避難の ビジョン・目標	・津波避難に向けた取り組みの方向を示すビジョン （例えば、「地域の全員が津波にあっても助かる」） ・短期的な目標（例えば、「家族で防災について話し合う」「災害時要援護者の避難に地域で取り組む」）
ワークショップで 話し合ったこと	・津波から逃れるための準備（自分、地域） ・災害時要援護者の避難、自動車による避難等
津波避難訓練の際 のアンケート内容	・アンケート調査結果の概要
今後の取組	・次年度以降に取り組むこと

## (3) 地域の津波避難計画の作成

- 第 5 回コア会議での協議を踏まえ、地域の津波避難計画を確定します。これまでの活動の成果をとりまとめた資料であり、今後の活動により修正を加えていくものです。（様式 11、様式集 P49 参照）

### 3 留意点

#### ○地域の特性に合わせて柔軟に行う

- ・地域の津波避難計画の作成にあたっては、この手引きの通りでなくてよいので、地域のこれまでの取組等を考慮して、効果的に実施します。

#### ○ワークショップでは子供から高齢者まで多くの方が発言できるように留意する

- ・グループごとのワークショップでは、人数が多くなると特定の人だけが発言し、発言できない人が増えます。このため、グループのリーダー役の人は、全員が発言できるように留意することが重要です。家族連れで参加している子供の発言を促すのも良いでしょう。

#### ○成果を地域で共有する

- ・地域の津波避難計画としての実行性を高めるためには、今回の取組みに参加していない人へも取組みの成果を情報提供することが重要です。このため、地域の津波避難計画を公表する等、成果を地域で共有することが必要です。

#### ○必要に応じて専門家への委託を行う

- ・本手引きは、地域の自主防災組織担当者や行政の防災担当者が、地域住民主体の津波避難計画を作成することを想定して作成しました。しかし、ワークショップの企画や準備、「Myまっぴらん」の作成、毎回のワークショップの準備と資料作成、アンケートの集計分析等、たくさんの労力が必要になるため、地域の自主防災組織や行政の担当者だけでは手が足りないことも想定されます。
- ・このような場合、地域及び行政でできることを整理し、手が不足する部分はコンサルタント等の専門家に委託することも考えられるでしょう。
- ・また、津波に関する講演や会議のアドバイザーとして、学識経験者、県や市町の防災担当職員、三重のさきもり、みえ防災コーディネーター等に依頼することも考えましょう。

